

ブラジル・カンピーナス大学
「消化器病診断センター」事前調査団
報告書

昭和63年1月

国際協力事業団

医 協

JR

88 - 03

ブラジル・カンピーナス大学
「消化器病診断センター」事前調査団
報告書

JICA LIBRARY



1042097[4]

昭和63年1月

国際協力事業団

国際協力事業団		
受入 月日	'88. 4. 04	703
登録 No.	17454	92
		MCF

序 文

ブラジル国政府は、昭和61年11月派遣のプロジェクトファイナディング調査結果を受け、サンパウロ州第5行政区（地域住民400万人）の中央病院の役割を果しているカンピーナス大学医学部に「消化器病診断センター」を設立し、食道静脈りゅう等消化器系疾患の診断、治療、予防のためのプロジェクト方式技術協力をわが方に要請越した。

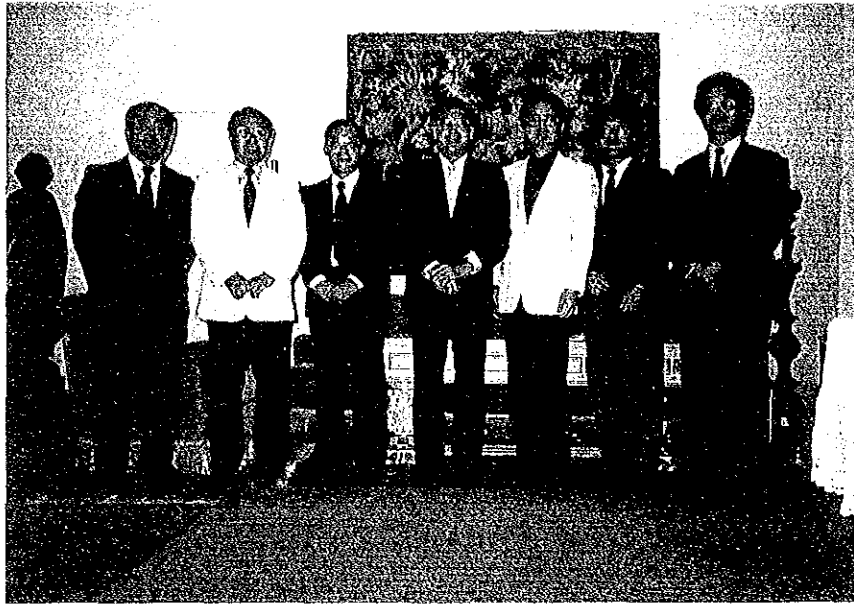
わが国は、この要請に応じて62年11月事前調査団を派遣し、ブラジル側の技術協力要請の具体的内容、プロジェクト実施体制、予算措置等の調査を通じ、技術協力の可能性、妥当性を検討した。本報告書は、その結果をとりまとめたものである。

ここに事前調査団員各位並びに同調査団派遣にご協力を賜った関係機関の各位に対し、深甚なる謝意を表する次第である。

昭年63年 1月

国際協力事業団

理事 末 永 昌 介



事前調査団員

萩原団員
鈴木団員
田中団員
藤巻団長
佐藤団員
田沢団員
堀尾団員



ミニッツ署名（右端より）

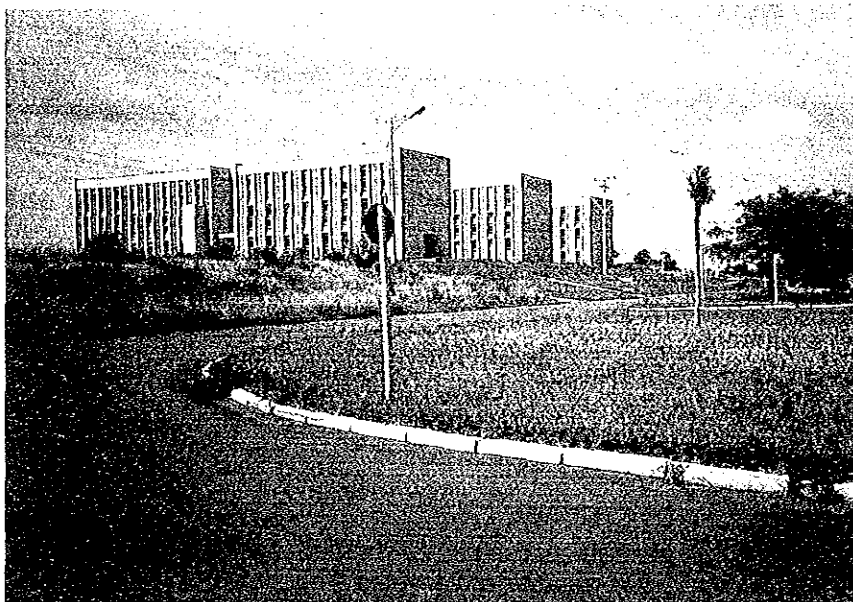
北村所長
南野領事
藤巻団長
山中講師
パウロレナト学長



佐々木公使 表敬



プロジェクトサイト 白樺内が建設用地、右奥が病院本館



本プロジェクトと同じビル郡

目 次

序 文	
写 真	
1. 事前調査団派遣	1
1-1 要請の背景と経緯	1
1-2 要請内容	1
1-3 対処方針	1
1-4 調査団の構成	2
1-5 調査日程	2
1-6 面談者リスト	3
2. 調査要約	6
2-2 協議結果（ミニユツ）	8
3. カンピーナス大学（UNICAMP）の概要	11
3-1 学 部	11
3-2 学 生 数	11
3-3 大学院学生数	12
3-4 教職員数	14
3-5 事務機構	17
3-6 諸外国との交流	17
4. 本プロジェクトの実施体制	19
4-1 組織図及びスタッフ	19
4-2 建物建設に係る予算	24
5. プロジェクトの実施計画	25
実施計画表	26
6. 部門別現状と計画	27
6-1 消化器内科	27
6-2 消化器外科	32
6-3 病理研究	34

7. 施設の現状と建設計画	36
8. 機材供与5カ年計画(案)	39

〔資料〕

1. 本センター設立のためのUNICAMP規程(英訳)	47
2. 同上(オリジナル)	54
3. 本センター運営体制(案)	60
4. 付属病院の各種統計	63
5. 容員教授用UNICAMP案内	76
6. 第3国との交流実績	89
7. 事前調査団派遣前準備資料	104

1. 事前調査団派遣

1-1 要請の背景と経緯

- 1) カンピーナス大学は、伯国医学教育の中心的機関であると共に、サンパウロ州第5行政区400万人（内日系家族4000戸）の中央病院としてその役割を果たしている。
- 2) 伯国は、近年食道静脈りゅう疾患が急増しており、特に消化器官の出血原因の究明、治療については、未だ確立されてなく、このためカンピーナス大学に「消化器病診断センター」を設立し、右疾患を中心とした早期診断、治療、予防のための技術協力方が方に要請越した。
- 3) 昭和61年11月プロファイ調査を行い、内科、外科、放射線科に分散している診断システムを統合し「消化器病診断センター」を設立することは有効であり、これに対しわが方が協力することは、効果的であり、協力成果も期待されたとした。
- 4) なお、大使館・JICA事務所の意見は以下のとおり。
 - 1) カンピーナス大学医学部は、伯国最高水準の機関であり、サンパウロ州のみならず伯全国への協力派及効果も期待される。
 - 2) サンパウロ州には日系市民が多く、本件協力を通じての医療サービス向上のひ益効果は大きく有意義である。

1-2 要請内容

- 1) 住血吸虫症感染に起因する食道静脈りゅう患者の早期診断、治療技術の移転
- 2) 上記疾患に対する病理学的診断技術の向上。併せ早期胃癌発見率向上のための診断技術移転
- 3) 上記1)の原因である住血吸虫症に対する感染予防とコントロールに資する疫学的基礎研究
協力分野：消化器内科、消化器外科、病理、疫学

1-3 事前調査派遣に当たっての対処方針

- 1) 伯国要請内容の確認、本件協力の目標、活動内容等の策定を通じ本プロジェクトの必要性及び可能性を明らかにする。
- 2) 先方負担事項（予算、スタッフ、施設等）を調査し、妥当な協力規模を策定する。
- 3) わが方投入（人材、機材供与等）可能な協力計画を策定する。この場合わが方が予定している協力体制は、
 - イ) 協力期間：5年
 - ロ) 国内協力機関：富山医薬大、琉球大
 - ハ) 専門家派遣：長期1～2名及び短期3名を3ヶ月切れ目なく
(合計 常時4～5名滞在)
 - ニ) 研修員受入：年2～3名

ホ) 機材供与：診断，治療，病理用機材 3 億円程度

4) なお以上の対処方針策定に当り，

「現在の施設が狭いところから伯側は，本センター用施設を新設するとしている。このため，協力計画を既存施設を利用しての協力計画及び拡張後の協力計画とⅡ期に分けて策定することも検討する要あり。」

を確認の上調査に臨むこととした。

1-4 調査団の構成

- | | | |
|---------------------|--------------|------|
| (1) 藤 巻 雅 夫 (総括) | 富山医科薬科大学医学部 | 教授 |
| (2) 田 沢 賢 次 (消化器外科) | 〃 | 助教授 |
| (3) 田 中 三千雄 (消化器内科) | 〃 | 講師 |
| (4) 佐 藤 良 也 (病 理) | 琉球大学医学部 | 教授 |
| (5) 鈴 木 章 文 (医学教育) | 文部省 国際企画課 | |
| (6) 堀 尾 勝 男 (設備・施設) | 島津製作所貿易部 | 課長 |
| (7) 荻 原 久 義 (技術協力) | 国際協力事業団医療協力部 | |
| | 医療協力課 | 課長代理 |

1-5 調査日程

日時	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	11/24	火	17:00 成田 VARIG 19:00 東京 RG 831	
2	25	水	06:30 (荻原のみ) リオデジャネイロ 09:15 同 発 10:50 ブラジリア	
3	26	木	10:00 SC 614 リオ発 11:05 サンパウロ (荻原のみ) 11:00 TR 565 ブラジリア 12:20 サンパウロ	8:00 ブラジル大使館 JICA 表敬打合せ 14:30 16:00 JICA サンパウロ サンパウロ総領事館 表敬打合せ→ Hotel Nikkey Palace 011, 270, 8511
4	27	金		10:30 衛生局長及びパレジャ表敬 13:00～ 15:00～ カンピーナス大学長 医学部長日程打合せ 16:00～ 病院視察
5	28	土		9:00 15:00～ 小児科視察 DR 山中より事情聴取，団員 協力案打合せ

日時	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
6	29	日		12:00 協力案打合せ(団員のみ) 医学部長昼食会 18:00～ 協力案打合せ→The Royal Dalm Plaza 0192, 2, 9085
7	30	月		9:00～10:30～12:30 カンピーナス大学 全体協議(第1回) 14:00～ 建築図面打合せ
8	12/ 1	火		9:00～ 8:00～ 分科会(5グループ) 藤巻, 田沢外科手 20:00～ 術視察, (団長主催夕食会)
9	2	水		9:00～ 全体協議(第2回)
10	3	木		18:00 分野別協議; minutes 署名 20:00～ (学長主催夕食会)
11	4	金	10:30～ (カンピーナス→サンパウロ移動)	15:30～ 17:00 JICA サンパウロ 総領事へ報告 19:30～ 在留邦人打合せ
12	5	土		13:30 日伯病院視察 田沢・佐藤・クテイト医師
13	6	日		調査結果とりまとめ
14	7	月	9:00 VP 290 10:25 サンパウロ ——— ブラジル	12:00 20:00 日程打合せ 公使昼食会 JICA 夕食会
15	8	火	19:45 TR 471 22:20 00:55 ブラジリア ——— リオデジャネイロ	10:00 11:00 12:30 外務, 教育両省表敬 団長主催昼食会 15:00 大使館報告
16	9	水	JL 063	
17	10	木	14:00 東京	

1-6 主要面談者リスト

(1) ブラジル側関係者

○外務省技術協力課(DCOPT)

Anamaria Masella Dortelaに会う予定であったが前週より病気のため会えず以下2名と会った。

Ronaldo Goncalves Ferraz

Paulo Roberto Amora Alvarenga

◦ ABC (Agencia Brasileira de Cooperacão)

Flavio Raupp Fonseca

◦ 教育省 Tel 061 - 225 - 8860

Valeria Porto

- Coordenadora de Cooperacão Técnica Internacional

◦ サンパウロ州衛生局長

Dr. Jose Aristodemo Pinotti

◦ カンピーナス大学 Universidade Estadual de Campinas

Caixa Postal 1170

13100 Campinas SP Brasil

Telefone: PABX (0192) 39 - 1301

Telex: (019) 1150

学 長 Prof. Dr. Paulo Renato Costa Souza

※ 医 学 部 長 Prof. Dr. Antonio Frederico Novaes de Magalhães

※ 副医学部長(所長) Prof. Dr. Nelson Ari Brandalise

※ プロジェクト
コーディネーター Prof. Dr. José Carlos Pareja

※ セクレタリー Prof. Ademar Yamanaka

総 務 部 長 Prof. Geraldo Giovanni

※ 国際関係係長 Mrs. Kathleen S. Martin

上部消化管内視鏡 Dr. Francisco Callejas Neto

下部 " Dr. Juvenal Ricardo Navarro Goés

X 線 Dr. Livio Nani

" Dr. Irene Harumekamaia Barcellos

臨 床 検 査 Dr. Arriana Seva Pereira

臨 床 病 理 Dr. Athanase Billis

() Prof. Dr. Nelson Adami Andreollo

※は中心人物

(2) 日本側関係者

◦ ブラジル大使館

佐々木 公 使

田 中 参事官

中 川 泰 治 一等書記官 (経済班長)

江 藤 幸 治 "

。サンパウロ総領事館

小野純男	総領事
大野俊作	首席領事
南野肇	領事
福寿浩	副領事

HIRO LIA OKAYAMA

。JICA ブラジル事務所

鈴木昭雄	所長
本郷豊	
村上正博	

。JICA サンパウロ事務所

北村孝	所長
真下慶治	室長

2. 調 査 要 約

(藤巻雅夫)

昨年11月のプロファイ調査に引き続き、今回2回目のUNICAMP訪問となったが、学長以下特に医学部長を中心とした関係者の本プロジェクト実現に向けての真摯な努力に接し深い感銘を受けると共に、日本側に対する強い期待が伺えた。

コスタ学長は、本調査団がカンピーナスに到着と同時に本センター設立のための大学規程に署名し大学内組織を明確にした。

また、カウンターパートとして医学部長及び副医学部長を当て終始協議に臨ませた。

更に、UNICAMPのスポンサーであるサンパウロ州政府を代表して衛生局長は、本プロジェクト実現に強い期待を表明した。

かかる環境の下で調査団は、協力に関する協議に臨んだ次第で、終始友好的且つ建設的な協議が行えた。

(1) 目 的

本センターは、食道静脈りゅう、がん等の消化器系疾患の診断及び治療技術の向上を図り、併せて右疾患について病理学的診断技術の確立及び研究を行うこととした。

(2) 施 設

UNICAMPは、医学部付属病院正面玄関向側に、本センター用に独立した建物（400m²×3階）を来年1月（工期9か月）に着工するとした。部屋割及び主要機材のレイアウトにつき協議し、基本的な合意（建設計画の項で詳述する）に達した。

(3) 日本側よりの協力内容

*長期1～2名の他常時2名4か月の短期（内科及び外科）専門家を派遣。この他特別講演の専門家を派遣する。

*毎年2～3名のブラジル人の受入研修。

*機材供与

の3点により行われる旨説明した。

なお、協力開始には、政府間におけるE/N（交換公文）が必要である旨併せ説明した。

(4) センタースタッフの配置

センター所長にブランダリーズ副医学部長、サイアンティフィックコミティーにマガリャエス医学部長を任命し、プロジェクト・コーディネーターにパレジャ助教授、ジェネラル・セクレタリーに山中講師を任命し運営体制を整えた。併せて、内視鏡等のセクションの長を任命すると共に本センターの全スタッフ構想を医師14人を含む計80人余とするとした。（詳細は、プロジェクトの実施体制の項参照。）なお、医師の内半数がフルタイムであるところからセンターの技術移転は円滑に実施できると期待される。

(5) 運営費

大学病院は、無料の医療サービスとされているも、UNICAMP病院は、社会保険病院としての

役割（全患者数に対する被保険者率は、71%で相当な収入を得ている）を負っているところから、運営コストを補えうる比較的健全経営の病院となっている。

(6) UNICAMPの特徴と本協力の効果

学生数 11,000 人、教職員 9,000 人、大学院生は、右内40%を占める。同大学は、大学院大学としての特徴を持っていると言え、このため、全国から学生が集っている。医学部は、最も歴史が古く、学生 600 人（1 学年 100 人）の他、大学院生 90 人（内、博士課程 13 人）を有している。大学教師としての道は、MS 1～6 迄（詳細は、大学概要参照）厳しくランクが付けられており、MS 3 以上に昇進するためには、博士課程を終えねばならない。このことから、博士課程を有する大学に対する協力の波及効果が高いと考えてよい。かかる大学には、全国からレベルの高い教授陣が集ることとなり、またこれら教授陣及び卒業生は、全国にちらばって行くこととなる。

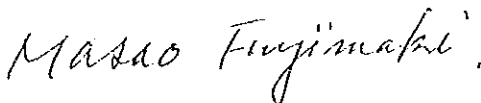
以上、調査結果概要を報告するが、UNICAMP側の準備は整いつつあるといえ、また本件協力の効果は、右に述べた以外にも日系人社会にもひ益するところ大との領事館の所見もあるところ、引き続き関係者の努力の下、E/Nの早期締結等、円滑な協力開始を望んでやまない。

MINUTES OF MEETING
ON
THE PRELIMINARY SURVEY
FOR
THE PROJECT OF GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER
OF STATE UNIVERSITY OF CAMPINAS

The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Dr. Masao Fujimaki, Toyama Medical and Pharmaceutical University, visited the Federative Republic of Brasil from November 25 to December 8, 1987, for the purpose of making the study on the request of Japanese technical cooperation for the Project of the Gastroenterological Diagnosis and Research Center of State University of Campinas (hereinafter referred to as "the Project") and of exchanging views with the Brazilian authorities concerned, headed by Prof. Dr. Paulo Renato Costa Souza, President, State University of Campinas.

As a result of the study and a series of discussions, the Team and the Brazilian authorities concerned came to the tentative understanding as attached herewith.

December 3, 1987



Prof. Dr. Masao Fujimaki
Head,
Japanese Preliminary
Survey Team
JICA



Prof. Dr. Paulo Renato Costa Souza
President,
State University of Campinas

ATTACHMENT

1. Name of the Project

The Gastroenterological Diagnosis and Research Center of State University of Campinas

2. Purpose of the Project

To upgrade the techniques of diagnosis and treatment of digestive diseases at the Gastroenterological Diagnosis and Research Center of State University of Campinas (hereinafter referred to as "the Center") and thus contribute to the promotion of the public health in the Federative Republic of Brazil.

3. Objectives the Project

The main objectives of the Project is to establish the Center and to strengthen the capabilities of the diagnosis and treatment for esophageal varices, digestive cancer and other digestive diseases supported by pathology and reseach work.

4. Activities of Japanese technical cooperation:

- (1) Upgrading the techniques of endoscopic diagnosis and treatment for esophageal varices and gastrointestinal cancer;
- (2) Guidance of surgery of gastrointestinal cancer and digestive tract;
- (3) Establishment of pathological diagnostic services for schistosomiasis mansoni and reserch capabilities of comparative studies and seroepidemiological surveys;
- (4) Guidance of digestive ultrasonography and hepatology; and
- (5) Other related activities mutually agreed upon as necessary.

5. The cooperation from Japanese side will include:

- (1) Dispatch of Japanese experts in the field of;
 - a. Surgery of digestive tract
 - b. Gastroenterology
 - c. Pathology and/or epidemiology
 - d. Special lecture
 - e. other related fields agreed upon as necessary
- (2) Acceptance of Brazilian personnel for training in Japan;
- (3) Provision of equipment.

6. Provision by Brazilian side will include:

- (1) Sufficient number of personnel;
- (2) Land, building and facilities; and
- (3) Allocation of budget of running expenses.

M. F.



7. Organization of the Project

(1) The Project belongs to the President of State University of Campinas and the Director of School of Medicine.

(2) The Director of the Center will be nominated by the President of State University of Campinas and act on behalf of the President who has the responsibilities for the administration and implementation of the Project.

8. The Joint Steering Meeting

A Joint Steering Meeting to formulate the annual work plan of the Project will be organized by the following members:

(1) Japanese side;

a. Japanese Experts

b. Members of a team to be dispatched by JICA

c. Representative of JICA

(2) Brazilian side;

a. Representative(s) of the Ministry of Education

b. President of State University of Campinas

c. Project Director

d. Representative(s) of the Center

(3) Observers

a. Representative(s) of the Consulate General of Japan at Sao Paulo or other person(s) designated by the Consulate General

b. Representative(s) of Technical Cooperation Division, the Ministry of Foreign Affairs of the Federative Republic of Brazil.

9. Follow up the Japanese Preliminary Survey Team

(1) Japanese expert team for detailed planning will visit Brazil in March, 1988.

(2) The Director of the School of Medicine will visit Japan for study tour and make further discussions with the authorities concerned of Japan in May, 1988.

(3) Japanese Implementation Survey Team will come to Brazil to sign on the Record of Discussions (R/D) after mentioned above (1).

10. Term of cooperation

The Record of Discussions will be followed by the Exchange of Note (E/N) between the two governments and the technical cooperation for the Project will start from the date of E/N for five years.

M. F.

8

3. カンピーナス大学 (UNICAMP) の概要

1962年サンパウロ州立大学として設立された。(医学部は63年に設立。) 1982年現在17学部 5617名の大学生及び 2278名の大学院生の他各種学校生 2192名合計 10,087名の学生を容する総合大学となっている。

3-1 設置学部

現在17の学部が設置されている。

生物学部, 教育学部, 化学部, 文学部, 物理学部, 工学部, 歯学部, 哲学部, 地学部
医学部, 経済学部, 美術学部, 栄養学部, 建築学部, 数学部, 体育学部, 農業工学部

※ 学内にinstituteが設置されているが, これは学部を意味する。

faculty = institute

3-2 学部, 学生数 (1982年現在)

UNDERGRADUATE PROGRAMS	ENROLLMENT
1 Physics (Fisica)	243
2 Mathematics (Matematica)	156
3 Statistics (Estatistica)	147
4 Computer Sciences (Ciencia da Computcao)	322
5 Chemistry (Quimica)	295
6 Electrical Engineering (Engenharia Eletrica)	392
7 Mechanical Engineering (Engenharia Mecanica)	358
8 Chemical Engineering (Engenharia Quimica)	339
9 Civil Engineering (Engenharia Civil) - Limeta	343
10 Food Engineering (Engenharia de Alimentos)	363
11 Agricultural Engineering (Engenharia Agricola)	105
12 Biology (Biologia)	185
13 Dentistry (Odontologia)	346
14 Medicine (Ciencias Medicas)	615 ※100人/年6年制
15 Nursing (Enfermagem)	110
16 Social Sciences (Ciencias Sociais)	210
17 Economics (Ciencias Economicas)	326
18 History (Historia)	95
19 Linguistics (Linguistica)	21
20 Letters (Letras)	171
21 Musical Composition and Conducting (Composicao Musical e Regencia)	87
22 Education (Educacao)	191
Special Students	197
	5,617人

3 - 3 大学院生数

GRADUATE PROGRAMS

	Masters	Ph. D.
Physics (Fisica)	89	51
Mathematics (Matematica)	45	44
Computer Sciences (Ciencia da Computacao)	36	
Statistics (Estatistica)	12	
Applied Mathematics (Matematica Aplicada)	41	
Areas/Concentration:		
Applied Analysis (Analise Aplicada)		
Optimization and Operational Research (Otimizacao e Pesquisa Operacional)		
Chemistry (Quimica)		
Areas of Concentration:		
Physical Chemistry (Fisico-Quimica)	16	13
Organic Chemistry (Quimica Organica)	31	15
Analytical Chemistry (Quimica Analitica)	17	20
Inorganic Chemistry (Quimica Inorganica)	21	24
Electrical Engineering (Engenharia Eletrica)		
Areas of Concentration:		
Automation (Automacao)	103	38
Electronics and Communications (Eletronica e Comunicacoes)	64	44
Mechanical Engineering (Engenharia Mecanica)		
Areas of Concentration:		
Solid State Mechanics (Mecanica dos Solidos)	26	12
Materials and Processes (Materiais e Processos)	27	18
Thermodynamics (Termodinamica)	33	24
Chemical Engineering (Engenharia Quimica)		
Areas of Concentration:		
Development of Processes (Desenvolvimento de Processos)	32	
Food Science (Ciencia de Alimentos)	30	27
Food Engineering (Engenharia de Alimentos)	26	9
Food Technology (Tecnologia de Alimentos)	34	11
Fish Technology (Tecnologia do Pescado)	6	
Agricultural Engineering (Engenharia Agricola)	21	
Areas of Concentration:		
Agricultural Machinery (Maquinaria Agricola)		
Preprocessing of Agricultural Products (Pre-Processamento de Produtos Agricolas)		

Biological Sciences (Ciencias Biologicas)		
Areas of Concentration:		
Immunology (Imunologia)	48	10
Ecology (Ecologia)	25	14
Genetics (Genetica)	14	18
Vegetable Biology (Biologia Vegetal)	44	33
Physiology (Fisiologia)	11	
Cellular Biology (Biologia Celular)	7	
Dentistry (Odontologia) – Piracicaba		
Areas of Concentration:		
Orthodontics (Ortodontia)	10	
Biology and Dental Pathology (Biologia e Patologia Buco-Dental)	48	
Pharmacology (Bases Farmacologicas Para a Terapeutica Medicamentosa)	21	
Medicine (Medicina)		
Areas of Concentration:		
Clinical Medicine (Clinica Medica)	68	10
Surgery (Clinica Cirurgica)	9	3
Economics (Ciencias Economicas)	99	41
Logic and Philosophy of Science (Logica e Filosofia da Ciencia)	24	7
Areas of Concentration:		
Logic and Epistemology (Logica e Epistemologia)		
Political Philosophy (Filosofia Politica)		
Social Sciences (Ciencias Sociais)		
Areas of Concentration:		
Anthropology (Antropologia)	45	
Political Science (Ciencia Politica)	38	
Sociology (Sociologia)	59	
History (Historia)	59	
Linguistics (Linguistica)	64	26
Letters (Letras)		
Area of Concentration:		
Literary Theory (Teoria Literaria)	42	
Education (Educacao)		
Areas of Concentration:		
Philosophy and History of Education (Filosofia e Historia da Educacao)	55	12
Educational Psychology (Psicologia Educacional)	49	
Educational Administration and Supervision (Administracao e Supervisao Educacional)	49	
Teaching Methodology (Metodologia do Ensino)	52	
Special Students	112	

3-4 教職員数

教 官	2,000 人	
一般職員	5,000 人	
附属学校	1,800 人	
技 術 者	260 人	9,000 人

右教官 2,000 人中, 402 人は医学部に所属, 大半の教師はフルタイム (RDIDP) であるが, ハーフタイム (RTC; 周 12 時間あるいは 24 時間) の教師も多い。

ランクは以下のとおりとされているが必ずしも職位に一致していない。

例えばブランダリース副医学部長は MS 4 で講師クラスである。

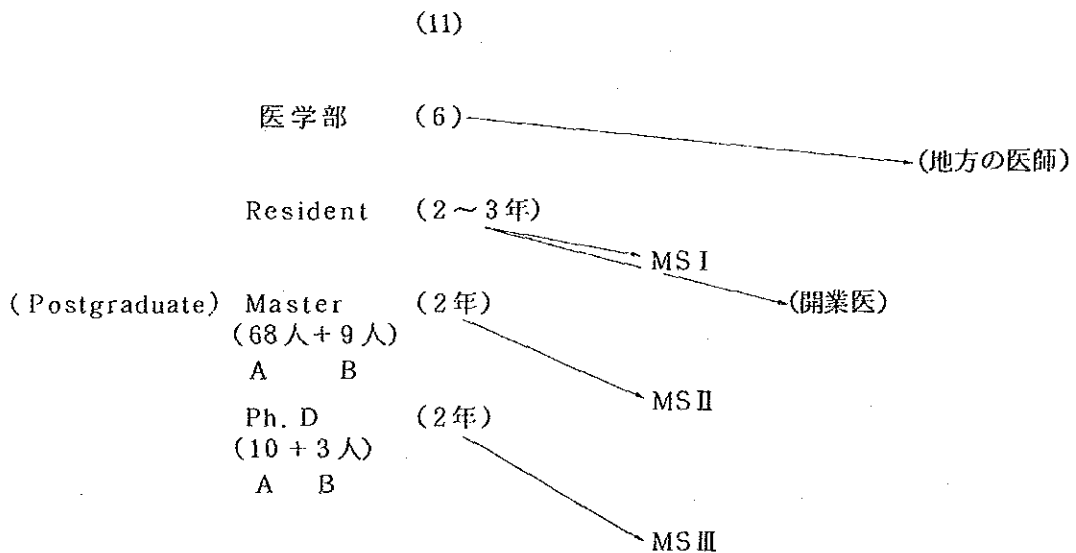
CARREIRA DOCENTE NA UNICAMP

最低所要年数

↓

	MS-1	Assistente	
2	MS-2	Mestre	
2	MS-3	Doutor	
3	MS-4	Livre-Docente	講 師
3	MS-5	Professor Adjunto	助 教 授
3	MS-6	Professor Titular	主任教授

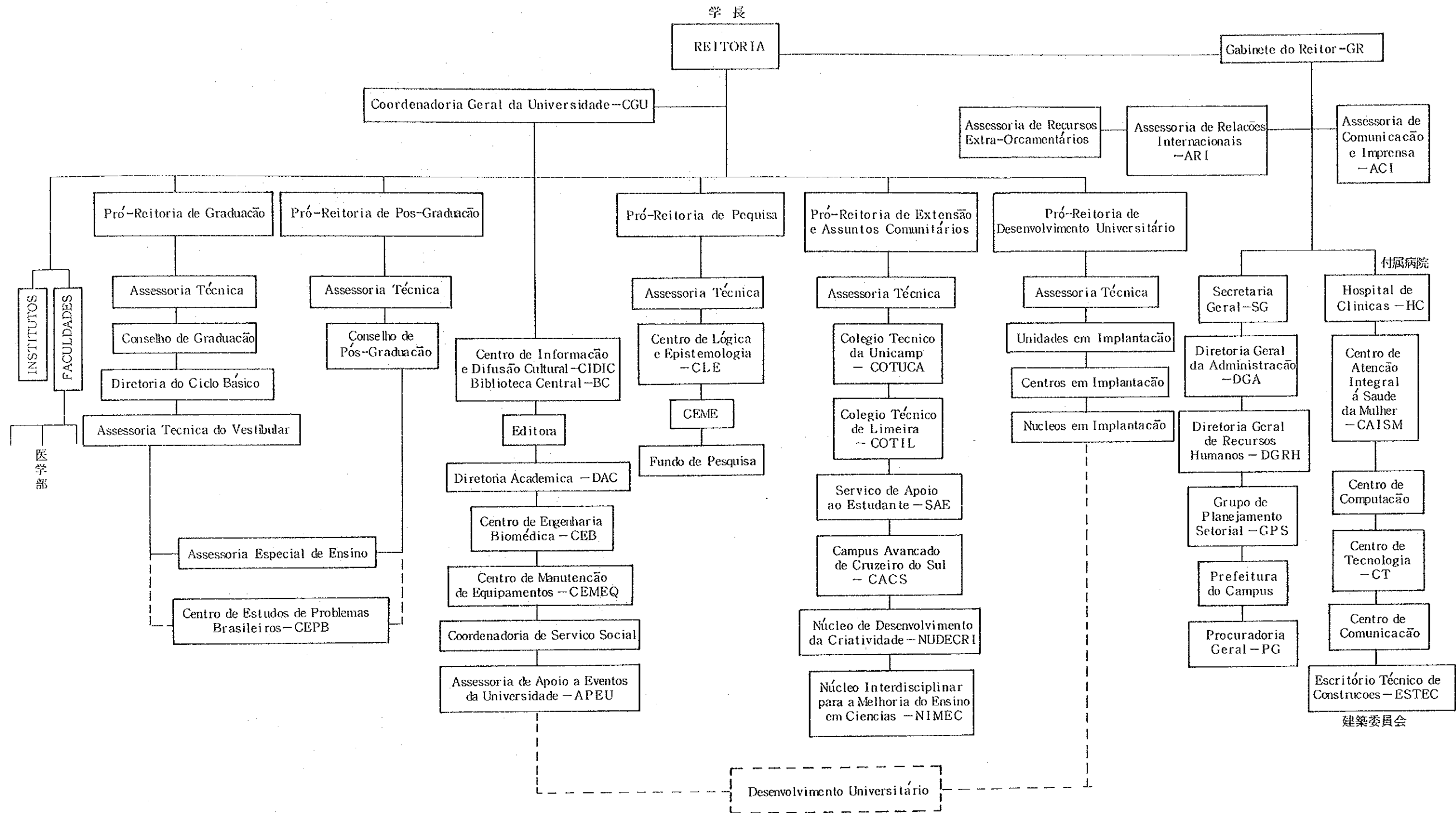
医学部卒業後の流れは以下のとおり。



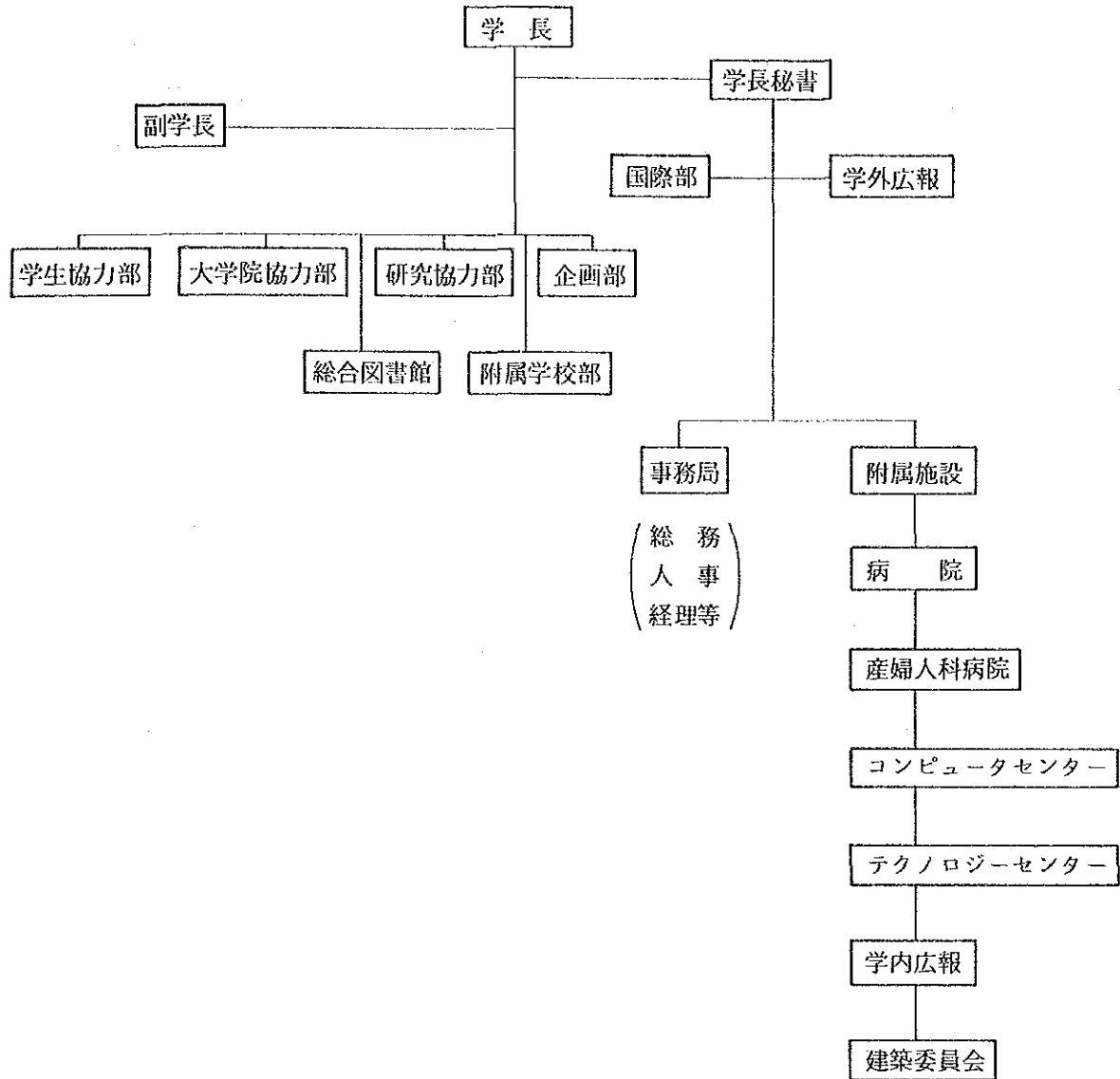
A = 内科

B = 外科

カンピナス大学組織図



3-5 事務機構



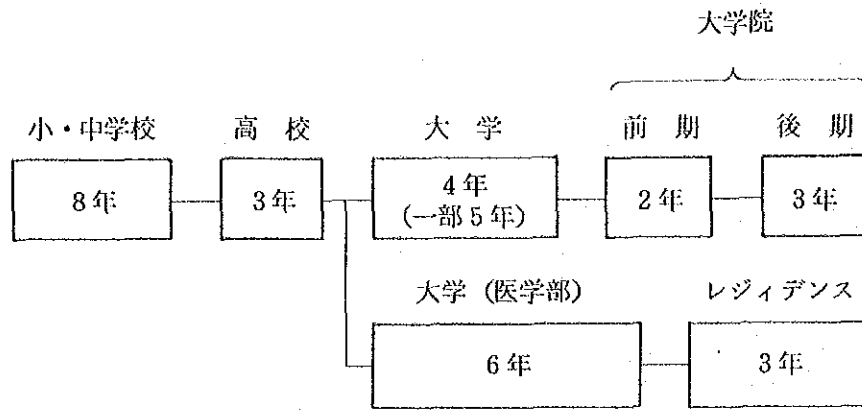
3-6 諸外国との交流について

カンピーナス大学では、現在31か国で合計83件の交流を行っている。その中心が協定等に基づく大学間、学部、研究所間の交流であり、主な交流内容は、研究者・学生の交流である。

交流国は中南米諸国を中心に、米国、東欧を含む欧州主要国、日本等世界各国と交流を持っている。

我が国の岐阜大学（国立）との交流では、大学間交流に基づき、毎年2名の学部レベルの留学生を日本から派遣している。

なお、ブラジル国教育事情は概要以下のとおり。



○ ブラジル国大学入試事情 (サンパウロ州)

1986年までは、州立大学への受験機会は1度しか得られていなかったが、1987年からは複数の大学への受験が可能になった。

例えばサンパウロ州立大学とカンピーナス州立大学との二校の受験が可能となった。

○ ブラジル国医学教育事情 (医学部)

ブラジル全体 77大学

内サンパウロ州 17大学 (州立4大学)

(参考)

大卒初任給 (昭和62年12月現在)

工 学 部 1か月3万クルザール～6万クルザール程度 (6万円～12万円程度)

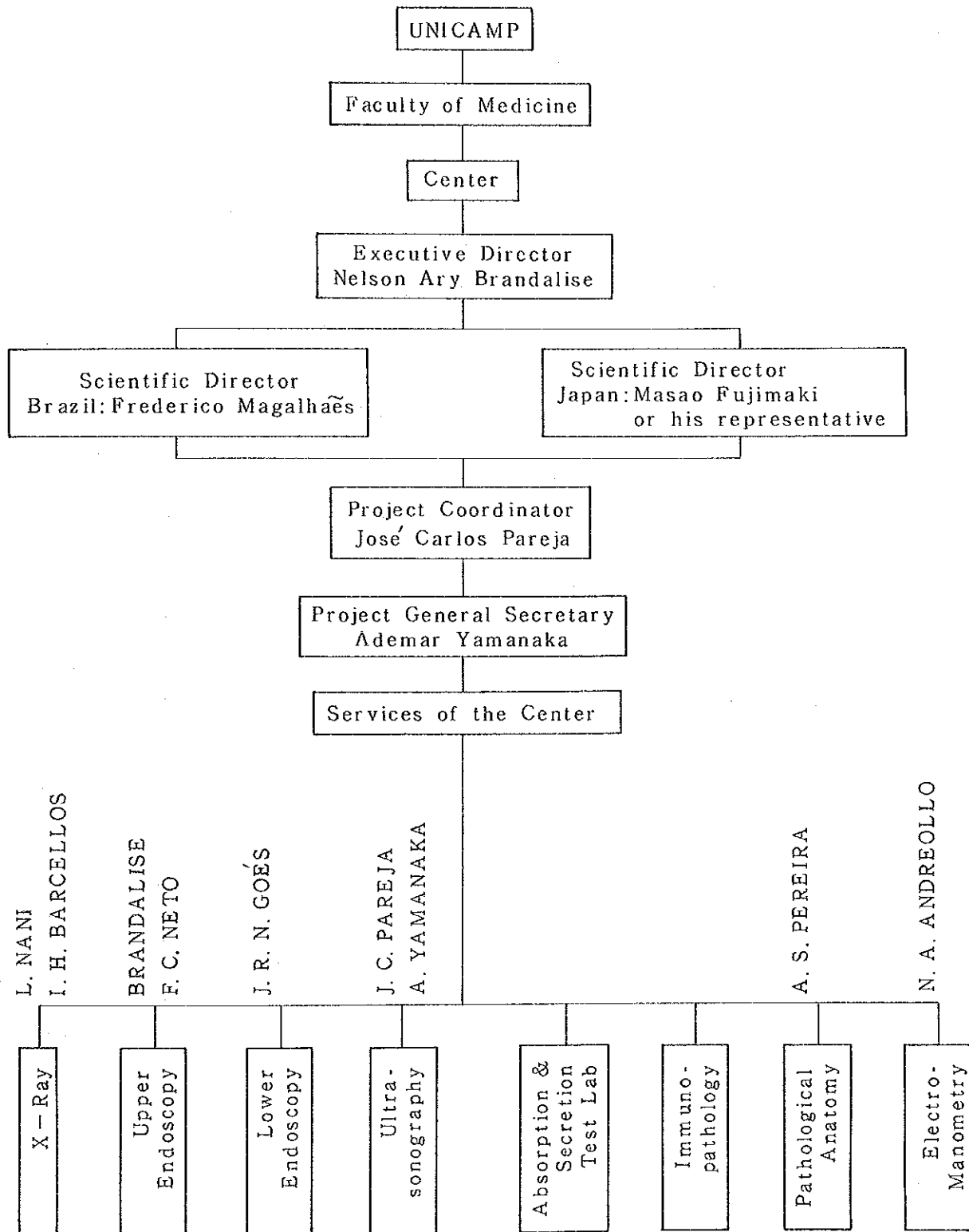
学生アルバイト

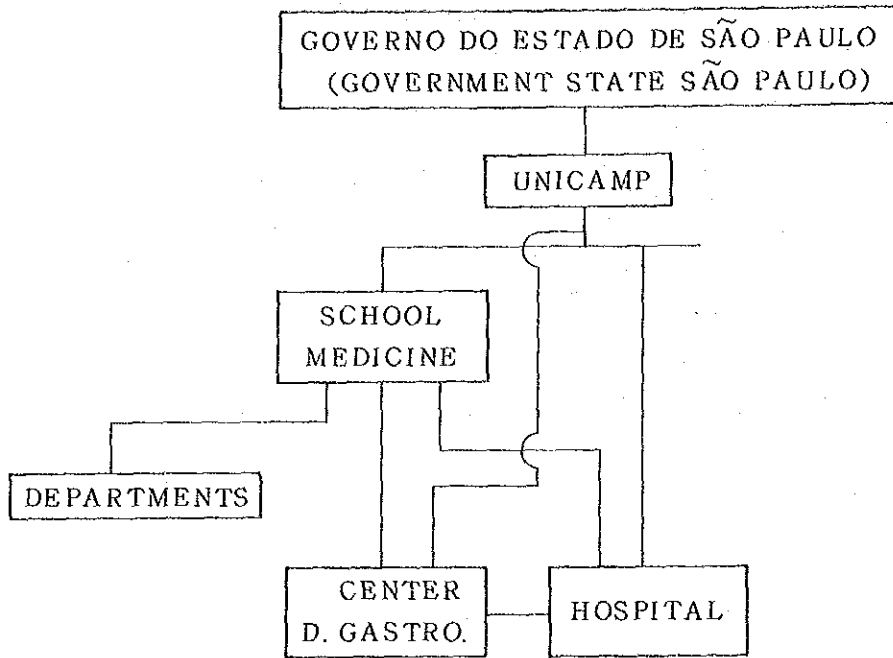
3～4年生 1か月8,000クルザール程度 (1万6,000円程度)

4. プロジェクトの実施体制

4-1 組織図及びスタッフの配置

本ミッションがUNICAMP学長表敬の際に学長が署名した規程第318/87号に基づき以下のとおり組織が検討された。





スタッフの配置は下表のとおりを予定している旨説明があった。(詳細は別表のとおりなお、個人別給与額も入手した。)

右内70%は実際に配置される見込である。

医 師	内 科	8	総 務	15
	外 科	9	受 付	3
	小児科	3	秘 書	5
小 計		(20人)	メッセンジャ	3
看護婦	上 級	2	経 理	8
	中 級	12	保 守 管 理	4
	一 般	10	タイピスト	2
小 計		(24人)	掃 除 夫	12
技 術 者		9	運 転 手	2
X線補助		3	そ の 他	2
小 計		(12人)	小 計	(56)
研究助手 (スライド作り)		(3人)	合 計	115人

よって、医 師 $20 \times 0.7 = 14$ 人

その他 $95 \times 0.7 = 60$ 人

の配置がなされると期待される。

A) TÉCNICOS E/OU PROFESSORES

20 Médicos, Docentes da Faculdade de Ciências Médicas da UNICAMP sendo:

03 Professores Titulares MS - 6

01 Professor Livre-Docente MS - 4

07 Professores Assistentes Doutores MS - 3

08 Professores Assistentes MS - 2

02 Enfermeiros, 12 Auxiliares de Enfermagem, 10 Atendentes de Enfermagem

04 Técnicos de laboratório, 05 Auxiliares de laboratório, 03 auxiliares de RX, 03 auxiliares P/área de farmácia;

Pessoal de apoio administrativo: 03 Auxiliares de Recepção, 19 Oficiais de Administração Geral, 08 Secretários, 01 Contador, 02 técnicos de contabilidade, 02 almoxarifes, 02 Operadores de máquinas, 12 auxiliares de serviços gerais, 02 trabalhadores braçais, 01 desenhista, 02 auxiliares de artes gráficas e 02 motoristas, distribuídos conforme segue discriminado abaixo e de acordo com áreas de atividades no referido Centro.

DISCRIMINACAO	CUSTO ANUAL (Cz \$)
---------------	---------------------

(省略)

- ⊗ Médico, Professor Livre-Docente-Diretor
Executivo do Centro-Dr. Nelson Ary Brandalise (RTC)
- ⊗ Médico, Professor Titular-Vice Diretor
Executivo do Centro-Dr. A. Frederico N. Magalhães (RTC)
 - Médico, Professor Assist. Doutor -
- ⊗ Coordenador do projeto-Dr. José Carlos Pareja (RTC)
 - Médico, Professor Assistente-Vice Coordenador
- ⊗ do Projeto-Dr. Ademar Yamanaka (RDIDP)
 - Médicos, Professores Doutores:
- ⊗ Luiz Sergio Leonardi (RTC)
- ⊗ Nelson Adami Andreollo (RDIDP)
- ⊗ Francisco Callejas • Neto (RDIDP)
- ⊗ Luis Roberto Lopes (RDIDP)
- ⊗ Elza Cotrim Soares (RDIDP)
- ⊗ Adriana Seva Pereira (RDIDP)
- ⊗ Paulo Roberto de Souza (RTC)
- ⊗ Maria Aparecida Mesquita (RDIDP)
- ⊗ Rogério Antunes Pereira Filho (RTC)

④	Fábio Guerrazzi
④	Juvenal Ricardo Navarro Góes (RTC)
④	Joao José Fagundes (RTC)
④	Raul Raposo de Medeiros (RTC)
④	Roberto Jarbas de Toledo (RDIDP)
④	Paulo Eduardo Rodrigues da Silva (RDIDP)
④	Edgard Ferro Collares (RDIDP)

continuação

A) TECNICOS E/OU PROFESSORES:

- Previsão de pessoal de enfermagem necessário, pautando-se no número de procedimentos a serem realizados no Centro:

- a) 02 Enfermeiros c/nível Superior
- b) 12 Técnicos de Enfermagem ou Auxiliares de Enfermagem
- c) 10 Atendentes de Enfermagem

- Previsão de pessoal de apoio para áreas de laboratório:

- a) 04 Técnicos de Laboratório
 - b) 05 Auxiliares de Laboratório
- p/área de Raio X

03 Auxiliares

p/área de Farmácia

- a) 01 Farmaceutico
- b) 02 Auxiliares

- Previsão de pessoal técnico-administrativo necessário para implantação do Centro:

• área de apoio administrativo:

- 03 Auxiliares de recepção
- 15 Oficiais de Administração Geral
- 05 Secretário Pleno-nível médio
- 03 Mensageiros 3

• área de Processamento de Dados:

- 01 Analista de Sistemas

DISCRIMINACAO

CUSTO ANUAL (Cz\$)

02 Digitadores	
• <u>área Financeira</u> : englobando seção de convenios, tesouraria, compras, e orçamento	
01 Contador	
02 Técnicos de contabilidade	
03 Oficiais de Administração Geral	
02 Secretário Junior	
• <u>área de Serviços Gerais</u> : compreendendo	
- seção de almoxarifado:	
02 almoxarifes	
- seção de patrimonio:	
01 Secretário Junior	
01 Oficial de Administração Geral	
- reprodução de documentações e serviço de mimeógrafo:	
02 Operadores de Máquinas	
- Serviço de Copa:	
02 Auxiliares de Serviços Gerais	
- Zeladoria:	
02 Trabalhadores braçais	
10 Auxiliares de Serviços Gerais p/limpeza visando atender as áreas de procedimentos, áreas laboratoriais e demais dependencias do prédio	
- Transporte:	
02 Motoristas	
• <u>área de Apoio Didático</u> :	
incluindo audio visual, desenho, confecção de slides, e outros materiais destinados á didática.	
01 Desenhista	
02 Auxiliares de artes gráficas	

4-2 建物建設に係る予算

① 建設資材及び工賃	$20,425,860^{\text{Cr}} + 49 \times 130^{\text{円}} \div$	$54,000,000^{\text{円}}$
② 家 具	$110,000^{\text{Cr}} + 49 \times 130^{\text{円}} \div$	$300,000^{\text{円}}$
③ その他諸経費	$2,793,000^{\text{Cr}} + 49 \times 130^{\text{円}} \div$	$7,410,000^{\text{円}}$

建物は、大学内の施設建設委員会で建設する。同等の建物を視察したところ、ローコストの簡素な設計であると見られ、工期9ヶ月との説明も納得できるものであった。

他方、エレベーターを使用しない為の設計も配慮されていた。

5. プロジェクトの実施計画

別紙 (TENTATIVE SCHEDULE) を基に協議を行い基本的合意を得た。

別途分野別協議を行ったが、これについては、8.部門別現況と計画に報告されるので、ここでは省略する。

伯国に於るプロジェクト協力の開始には、交換公文 (E/N) が必要であるが、これに至るまでの間、実施協議調査団の派遣に向けて以下の諸事項の実施が望ましい。

1) 長期調査員の派遣

イ) 編 成

医療機器コンサル 2～3名及び事前調査団員 1～2名

ロ) 目 的

供与予定機材の配置図、必要な配電・給排水・酸素及びガスの配管図の作成

伯側建築技術者との協議及び必要措置の申し入れ

5ヶ年の機材供与計画の策定と仕様書の作成、部門別「行動計画」の策定

ハ) 時 期

63年3月

2) 実施協議調査団の派遣

カンピーナス大学側の早期協力開始の要望に応えるため、63年5月中旬の派遣が望ましい。

3) 医学部長の受入れ

医学部長は、実質的本プロジェクトの責任者となるところ、 possible の限り早期に (63年5月が適当) 本邦の関係機関を訪問せしめ日本側の支援体制に理解を得させておくことが望ましい。

TENTATIVE IMPLEMENTATION SCHEDULE FOR THE UNICAMP PROJECT

GENERAL

	(First Year)	(Second Year)	(Third Year)	(Fourth Year)	(Fifth Year)
Japanese F/Y (April ~ March)	1988	1989	1990	1991	1992
1. TRAINING IN JAPAN	①医学部長 ②病理科 ③外科 ④内科 (8)	1) Surgery 2) Gastroenterology 3) M3 4) M3 (2~3)	6M 1) Surgery 6M 2) Gastroenterology 6M 3) M3 (2~3)	6M 1) Surgery 6M 2) Gastroenterology 6M 3) M3 (2~3)	6M 1) Surgery 6M 2) Gastroenterology 6M 3) M3 (2)
2. JAPANESE EXPERTS					
1) Leader	-----	-----	-----	-----	-----
2) Coordinator	-----	-----	-----	-----	-----
3) Surgery (ANNEX I)	Apr ~ 4M	Oct ~ 4M	Apr ~ 4M	Oct ~ 4M	
4) Gastroenterology (ANNEX II)	Apr ~ 4M	Jun ~ 4M	Jul ~ 4M	Jun ~ 4M	
5) Pathology (ANNEX III)	Jul ~ 4M	-----	-----	-----	-----
6) Special lecture	-----	-----	-----	-----	-----
7) Others (Xray Technician)	-----	-----	-----	-----	-----
3. EQUIPMENT					
4. SURVEY TEAMS	Mar *1 ← May *2	-----	-----	-----	-----
TERM OF COOPERATION (E/N)					Evaluation

* 1 : EXPERT TEAM FOR PLANNING

* 2 : IMPLEMENTATION SURVEY TEAM FOR R/D

6. 部門別現状と計画

6-1 消化器内科

(田中三千雄)

(1) 現状

消化器内科の現状に関しては、昨年度の報告（ブラジル・カンピーナス大学「消化器病診断センター」プロファイ調査団報告書、昭和61年12月、国際協力事業団、医協、RC、87-18、9頁～11頁参照）と大きな変わりはない。

現在、消化器内科の診療にたずさわっている医師団の主メンバーは以下の者である（カッコ内は専門分野ならびに勤務時間）

- ① A. Fredevico N. Magalhães (Internal Medicine & Endoscopy, Half time)
- ② Ademar Yamanaka (Endoscopy & VS, Full time)
- ③ Elza Cotrim Soares (Nutrition, Gastroenterology & Endoscopy, Full time)
- ④ Adriana Sevá Pereira (Diarrhea, & Pancreatic Secretion, Full time)
- ⑤ Paulo Roberto de Souza (Gastroenterology & Endoscopy, Half time)
- ⑥ Maria Aparecida Mesquita (Gastroenterology & Endoscopy, Full time)
- ⑦ Rogerio Antunes Pereira Filho (Gastroenterology, Half time)
- ⑧ Fábio Guerrazzi (Endoscopy & VS, Half time)

また小児科においても消化器の診療にたずさわっている以下のような医師がおり、「消化器病診断センター」において内視鏡検査を行う予定である。

- ① Roberto Jarbas de Teledo (Hepatology & Gastroenterology, Full time)
- ② Paulo Eduardo Rodrigues da Silva (Gastroenterology & Endoscopy, Full time)
- ③ Edgard Ferro Collares (Gastroenterology, Full time)

以上の内科、小児科の医師による消化器疾患診療においては、消化器疾患の診断（X線、VS、内視鏡）と治療（Endoscopic Surgery）でのたち遅れを指摘することができる。

(2) 日本からの技術協力に対する姿勢

きわめて好意的であり、こちらの要請に対しての反応にも誠意があった。今回のプロジェクトを通して、単に医療用機材が供給されることのみで終結することなく、日本の医師と診療に関して十分に意見交換することを強く希望していた。

(3) 「消化器病診断センター」運営にあたっての合意事項

- イ. 消化器疾患の診断、治療に関する共通のマニュアルを作成する。日本側の医師が原案を作成する。
- ロ. 「消化器病センター」で施行した生検材料の組織標本作成は、従来通り病理学教室で行う。特殊な例に限ってその作成を「消化器病センター」で行う。
- ハ. 病棟の回診に日本医師が参加する。

ニ. 定期的な検討会, 抄読会, 研究会をもうける (カンピーナス大学外科の医師 2 名より提出された意見を, 資-①②として添付)。

ホ. カンピーナス大学から日本へ研修 (6 カ月間) に来る医師は, ブラジルにおいてあらかじめ“日本語会話”を勉強しておく。

(4) 「消化器病診断センター」運営にあたっての問題点

イ. 医師の感染予防対策

- 熱帯病の知識 - 佐藤教授に小冊子作成を依頼
- 内視鏡検査前の血液検査体制 - AIDS, B 型肝炎, 梅毒

ロ. 重症患者の運搬方法

病棟 ⇄ 「消化器病診断センター」

消化管出血患者, 病末期患者, 術後患者, 腹腔鏡検査の患者

Endoscopic Surgery の患者

ハ. フィルム (VS, X 線, 内視鏡), 薬品 (現像用, その他) の補給体制

ニ. 冷房装置設置の確約

X 線検査室, 内視鏡検査室, Doctors' Room (1F), etc.

ホ. 医師の住居, 車その他の生活様式の具体策を早急に呈示

ヘ. 医師のポルトガル語会話習得

カウンターパートによるレッスン (於, 日本)

ト. ブラジルにおける学会活動

Dr. Ishioka との連携 (資-③)

(5) 計 画

イ. 派遣医師の人数と期間

(資-④)

ロ. カウンターパートの人数と期間

(資-④)

ハ. 「消化器病診断センター」における協力技術内容

- 消化器病診断技術の指導 - X 線, VS, 内視鏡, Pathology
- 消化器病治療の指導 - Endoscopic Surgery
- 共同研究 - Gastroenterology, Hepatology

ニ. 日本におけるカウンターパートの指導

- 指導施設 - 富山医科薬科大学
- 指導内容 - 消化器病診断技術

消化器病治療



UNICAMP

SCIENTIFIC ACTIVITIES
FOR
THE GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH CENTER
OF THE STATE UNIVERSITY OF CAMPINAS

- Weekly discussions among the Center members on medical assistance activities
- Biweekly discussions among the Center members on research activities
- Meetings and congresses, both internal and jointly with other universities
- Case discussions among regional practicing physicians working in the area of digestive tract diseases.
- Conferences on current themes of digestive tract diseases with professors of other centers, both national and international
- Training courses for young physicians, nurses, attendants, and nutritionalists, etc.
- Creation of a journal to document scientific activities of the Center



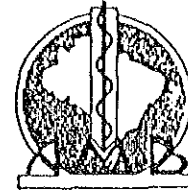
UNICAMP

COOPERATING ACTIVITIES OF
RESEARCH, CONGRESSES AND CASE DISCUSSIONS
BETWEEN JAPANESE DOCTORS AND BRAZILIAN DOCTORS

- 1) Monthly or weekly case discussions between Japanese and Brazilian doctors, involving upper endoscopy and colonoscopy findings and other interesting studies performed.
- 2) Presentations of the research, case records and examinations performed in the Diagnostic Center at Brazilian congresses of Gastroenterology, Surgery or Endoscopy or other meetings and symposia.
- 3) Programs of university courses (Graduate Courses) for doctors, medical students, and residents, also inviting doctors from the Campinas region, doctors from other Brazilian universities and hospitals, to learn as well as to exchange information about new techniques.



SOCIEDADE BRASILEIRA DE ENDOSCOPIA DIGESTIVA
Filial da Associação Médica Brasileira
Rua Padre Anchieta, 1500 - Ap. 1401 - CEP 80.430
Fones: Res. (041) 225-1001 - Com. (041) 222-8903
Curitiba - PR



Porto Alegre, 20 de outubro de 1987.

PRESIDENTE
Olival Ronald Leitão

VICE-PRESIDENTE
Celso Afonso de Oliveira

SECRETÁRIO
Júlio César Pisani

TESOUREIRO
Renato Araújo Bonardi

PRESIDENTE ELEITO
Kiyoshi Hashiba

Dr. Shinichi Ishioka
MD Presidente do Capítulo de São Paulo
Rua João Julião, 331
01.323 SÃO PAULO, SP

Caro amigo Shinichi,

Conforme seu pedido, estou enviando a lista dos candidatos ao TEED que farão a Prova Prática em São Paulo, distribuídos nas cidades de São Paulo e Ribeirão Preto:

Cidade de São Paulo -

1. Albérico Mendes Navarro
2. Antonio Carlos de A. Botelho
3. Celso Guilherme Christiano
4. Flávio Braguim
5. Helena Keiko Massuda
6. Lee Shiu Liang
7. Márcio da Silva Bersaneti
8. Maria Terezina Fernandes *
9. Nelson Yukitoshi Sato
10. Vera Helena de A. F. de Mello
11. Walter Augusto Lopes *

Cidade de Ribeirão Preto -

1. Afonso Luiz Villa
2. Herico Darcie Filho
3. João Ruiz Silva
4. Luiz Fernando A. Ferreira
5. Luiza Maria F. Romanello *
6. Aloísio de Albuquerque C. Serra (MG)
7. José Alberto Costa E. Vieira (MG) *

Todos os candidatos foram consultados e os que tem * já responderam, concordando com os locais da Prova e informaram que realizarão Panendoscopia per-oral.

Fico a disposição para qualquer outra colaboração.

Forte abraço,

ブラジル・カンピーナス大学消化器病診断センター設立に関する事前調査、カンピーナス大学医学部 (UNICAMP) における消化器外科部門の現状と調査結果にもとづく本プロジェクトの技術協力の可能性と今後計画、およびそれによる到達目標について報告する。

本プロジェクトに主として要請されている消化器外科部門の関係する内容は住血吸虫症感染に起因する食道静脈瘤患者の早期診断、治療法の確立であり、また消化器癌全般の早期発見と外科的治療、それにもとづく画期的な生存率の向上である。

更にシャガース病患者における消化器病変 (巨大食道、巨大結腸) の外科的治療の協力である。

A. 消化器外科分野の現状

カンピーナス大学医学部附属病院の臨床及び研究内容の現状は次の通りである。

1) 住血吸虫症感染に起因する食道静脈瘤

本病態への治療法に関しては、現在、内視鏡的診断とそれにもとづく硬化療法が主たる方法であり、詳しくは消化器内科側からの報告書を参照していただきたい。

本疾患に起因する静脈瘤の主たる治療法は外科的食道離断術ではなく、本邦における食道静脈瘤治療法と同様硬化療法になっており、週3~4名の患者に実施されている。硬化療法に関しては消化器外科医が主に担当しているが内視鏡の不備、硬化剤の供給不足、品質不均一などが指摘されていた。したがってsurgical endoscopistの専門家を最も必要としている現状にある。

2) 消化器癌にたいする診断と治療

診断能力に関しては内科側からの報告になるのでここでは省略し臨床における外科的治療法の現実について報告する。

ブラジル国の医学部全般に共通することとして臨床系と基礎系が分離しているため、患者を中心とした研究はなされているが、それにもとづく病理学的研究や癌の基礎的研究は全くされていないと言っても過言ではない。ことに外科的癌治療の中心ともなる食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌などの系統的リンパ節郭清の手技や臨床病理学的検索は全く施行されていない。ことに本邦におけるような癌統計の基になる各臓器の癌取扱い規約的なものはない。したがって、癌におけるリンパ節のgradingにたいする配慮はされておらず、早期診断の遅れと同様、癌治療の予後不良の最大の原因になっていると推察された。

癌治療法の最も基礎的問題でもあるリンパ節のgradingにみるまでもなく、消化器癌の外科治療にたいしても本プロジェクトの果す役割は大きく、ブラジル国の消化器外科全般にもその影響は多大であると考えられる。

このような消化器癌の外科治療に関してはカンピーナス大学医学部外科教授L. S. Leonardi博士やN. A. Brandalise博士と技術協力することが約束された。したがって具体的方法として、教授、助教授クラスの交換講義、技術指導、本邦における臨床病理学的データにもとづく検討

がブラジル国においても必要であることが討論された。

3) シャーガス病による巨大食道、巨大結腸にたいする治療

本疾患による巨大食道や巨大結腸の経験は日本では殆んどない現状であり技術的協力の可能性は未知に等しい。したがってこの件について、本疾患の専門家であり、多くの手術症例を有するサンパウロ大学教授 D. E. Cutait 博士と検討した。本疾患の予防医学の必要性はもとより、現有する多くの患者への対応として、手術々式の改良、特に新しい吻合器の導入による技術協力が必要であることが述べられ、本プロジェクト5年間の実施期間中に効果的に実行されることを希望した。

B. 技術協力における今後計画と到達目標

以上述べてきた調査結果をみるまでもなく、食道静脈瘤の硬化療法の技術援助、各種消化器癌の早期発見率の向上と消化器癌治療にたいしての標準的術式の普及は画期的予後改善をもたらすことが約束されよう。本センターの開設により、医学生への教育はもとより本センターでの技術訓練が開始されることにより、その波及効果は洲およびブラジル全土での健康の保全に役立つと考えられる。

また本センターの将来的到達目標として忘れてはならないのは予防医学的な研究を継続的に行うことと、治療を施行された患者の社会的復帰の充実を計ることである。そのためのリハビリテーション学的医療提供も必要である。すなわち食道静脈瘤出血の再発防止のための定期的追跡調査や癌患者においては癌再発の早期発見、直腸癌患者などでは人工肛門造設者への Quality of life の向上に資するリハビリテーションの指導である。ストーマリハビリテーションは日本においてもほぼ技術的に高水準にあり、その技術的援助が本プロジェクトの質の高さを示すことになると確信するとともに、したがって本プロジェクトの後半に、実施されることを提案する。

カンピーナス大学医学部消化器病診断センターにマンソン住血吸虫症の研究を中心とする病理学研究部門を設置することに関し、同大学の寄生虫学、病理学、病院検査部の関係者と協議し、また同大学寄生虫学教室の研究内容、設備等について見学を行った。その結果を踏まえ、現地における最近の寄生虫事情、基礎的研究の現状、当該病理研究部門設置のための方策等について報告する。

1. カンピーナスにおける寄生虫病の現状

ブラジルにおける寄生虫病は北部地域を中心にまだ高度な蔓延状態にあることは周知の通りであるが、カンピーナス大学にあっても、近接するエスピリトサント、バイア州などからの患者の中に多数の寄生虫保有者がみられる。特に、蛔虫、鉤虫、鞭虫、糞線虫、赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫など、多彩な消化管内寄生虫保有者が多い。また、クルーズ・トリパノソーマによるシャーガス病患者も多数みられ、その慢性感染による巨大食道、巨大大腸といった消化器関連の症例も多い。

本プロジェクトで問題となるマンソン住血吸虫症は、サンパウロ州内に小規模ながら流行地があるほか、やはり東北部のエスピリトサント、バイア州からリオグランデドノルテにかけての広い範囲に濃厚な浸淫地域があってそこからの患者の中に多数の感染者がみられる状態にある。

他方、同大学における寄生虫検査は、蛍光抗体法によるシャーガス病の検査を除けば、いずれも糞便を用いた簡単な直接塗抹法のみで実施されており、診断効果の高い集卵法や血清学的方法による検査などはまだほとんど試みられていない。

2. カンピーナス大学における基礎的研究の現状

カンピーナス大学医学部 (Faculty of Medical Sciences) は、わが国の医学部と異なり、基礎医学に相当する学問分野の講座の多くが医学部内に設置されていない。例えば、当該研究部門に密接な関連をもつと考えられる寄生虫学、微生物学、免疫学等の関連講座はいずれも生物學研究所 (Institute of Biology) 内にある。医学部自体は専ら臨床およびそれに密接に関連する検査業務等を行う部門として位置づけられており、従って同医学部内には基礎的研究を行う十分な場が確保されておらず、基礎研究に対する認識も高いとは言えない状態にある。

現在、同大学において住血吸虫症を研究している部門として Institute of Biology 内に寄生虫学講座 (Department of Parasitology) があり、Dr. Luiz Candido de Souza Dias を中心に15名のスタッフが衛生害虫 (Entomology) 寄生原虫類 (Parasitic protozoology)、マンソン住血吸虫症 (Schistosomiasis) の3研究グループに分かれて研究を行っている。住血吸虫症研究グループは、Dr. Luizをはじめ5名のスタッフが主に疫学および薬剤抵抗性に関する研究などに取り組んでいる。マンソン住血吸虫症は、もともとブラジルに土着のものではなく、移入された寄生虫病であることから、その分布状態や分布域拡大の様子など、疫学的立場から興味深い問題があり、同グループでは、特に疫学的研究に力を注いでおり、研究は比較

的活発に行われていると思われた。

3. 病理研究部門の設置について

前述したように、本医学部においてここで問題とするような基礎的研究を定着させることについて、関係者の間では比較的関心の薄い面があると思われるので、研究の日常的な活性化を図るために、最低1名のブラジル側の専任研究員とこれを補助するための研究助手1名（後述する理由により出来れば検査技師が望ましい）を当該病理研究部門に配置することが必要と思われる。住血吸虫症の研究は、今回の事前調査の結果、Dr. Luizの研究グループと共同研究できる見込みがいたので、この場合の専任研究員とは必ずしも住血吸虫症の専門家であることを意味しない。

住血吸虫症の研究のためには、Dr. Luizの研究室がカウンターパートとして、当該プロジェクトに参加、協力できるという了解が得られた。相手側スタッフも本病理研究部門の研究課題として掲げた項目に対して十分な理解と興味を示しており、同研究室スタッフが日本で必要な免疫検査法の技術トレーニングを行った上で、研究に参加することについても内諾が得られた。これらブラジル側カウンターパートと日本から派遣される専門家との関係で、本症の研究体制は十分図られ得ると考える。

研究の実施にあたり、先ず免疫検査用の抗原材料となる住血吸虫の虫体を多量に集める必要がある。虫体を採取するための実験感染施設（中間宿主の飼育室および動物室）を同診断センター内に付設することは、当初より不可能と考えていたので、研究遂行のベースとなる虫体材料の供給をどのようなかたちで確保するか、その可能性を検討することも今回の調査の大きい目的のひとつであった。幸いDr. Luizの研究室では、立派な中間宿主の飼育室と動物室を完備しており、ここでの感染実験も日常的に実施されている。このため、当面、研究に必要な虫体材料の供給をここに依頼し、この点についても先方の了解が得られた。

他方、Dr. Luiz側から本病理研究部門において住血吸虫症の血清疫学的調査を実施することの可否と強い要望が示された。血清学的手法による本症の疫学調査は、それ自体、当初より当プロジェクトの課段のひとつに挙げられており、特に問題はないと考えるが、なお現地関係者の理解と協力が得られるよう努力する必要がある。

最後に、同病理研究部門は本診断センター内に付設の研究部門であることを考えれば、住血吸虫症の研究のみを行う部門として位置づけることは将来的に困難である。従って、消化管の疾病に関連した他の病理学的、免疫学的研究テーマも現地研究者によって同研究部門で実施されることを考慮しなければならない。また、ブラジルには他に様々な感染症が存在しており、梅毒、HBV、HBsAg、AIDSなど、内視鏡検査に際して感染予防の立場から十分留意しなければならないものも多い。同大学では、まだこれらの感染症に対する検査体制が十分に取られていないので、これを当研究部門で担当する必要があることも指摘されている。前述した専任研究員は、当該病理研究部門で実施されるべき研究課題の調整にあたるほか、梅毒、HBVなどのルーチン検査を行い得る研究助手（検査技師）の配置が望ましい。

7. 施設の現状と建設計画

カンパナス大学は独自の建設部門 (ESTEC, = ESCRITORIO TECNICO DE OBARAS) を有している。そして大学の建物は全て統一された規格の元にESTECが簡単な方法で建築をしている。(写真参照)

消化器病診断センターもこれらと同一の規格で現地費用で建築されることになっている。(ブロックをベースにした3階建ての建物で1フロア-400m²延べ1200m²の建物である。)

こうした建物を消化器病診断センターとして有効に活用するため、日本から供与する機材を考慮して下記事項につき打合せ調査したので報告する。

- (1) 現地環境 (施設, 設備) の現状調査
- (2) 建設計画 (レイアウト) の作成
- (3) 特別機材供与に関連する日本側からの要請事項
- (4) 機材供与リストの作成
- (5) その他

報告事項

(1) 現地環境 (施設, 設備) の現状調査

☆一般的条件: 温度 (10~37℃), 湿度 (40~70%), 風雨塵埃 (8~9月頃雨が強い。赤い土が飛ぶ時があるが機材には影響ない), 地震, 火災, 水害, 風害 (全てなし)

☆施設, 設備: 建物 (ブロックベースの3階建て建物, 床の集中荷重は最大450kg/m², 空調施設, エレベータなし), 電源 (3相, 単相とも127~220V迄可能, 変動率±20%, *周波数60Hz), 壁電源 (127V, 10~15A), 給排水施設 (可, 水圧流量不明, 水温18℃以下のものが必要なときはCooling Towerが必要)

ガス (患者用としてO₂ N₂Oは供給可能)

*最低率10%とすること

(2) 建設計画 (レイアウト) の作成

協力計画の内容, 実施及び供与機材を考慮して下記概略配置を決定した。

G-nd, Floor (Left Side) : X線撮影, 超音波診断, 他

" (Right Side) : 内視鏡診断全搬

1-st Floor (L-Side) : マノメトリー, 分泌物検査他

" (R-Side) : (組織, 血清, 細胞他) 検査室他

2-nd Floor (L-Side) : センター長室, 教授室, セクレタリー室他

" (R-Side) : 大会議室, 小会議室, 図書室他

先方関係者とも相談の結果, 最終レイアウトは別紙 (KHL-127-06) のように決定した。

(3) 特別機材供与に関連する日本側からの要請事項

☆X線機器に関する要請

壁厚（コンクリート 25cm 以上，ブラジルでの法規に準じること），床の強度（1500～2000 kg 重），ピット（巾 240mm，深サ 120mm），天井高サ（2500～3000mm），単独変圧器（100 kVA）設置，単独電源箱設置，電源（3 ϕ ，200～220V（400～440V），1 ϕ 100～110V（200～220V）インピーダンス値 etc

☆内視鏡に関する要請

内視鏡洗浄用消毒装置の水圧，水量，IN-LET及びOUT-LETのSPEC，他

☆オートクレーブに関する要請

オートクレーブの1機種を例にあげ，蒸気（管径，圧力，消費量），給水（管径，圧力，消費量），排気，排水，電源，他

☆電源に関する要請，他

±20%の電源変動には応じられない機器があるので安定化電源を用意して頂く必要がある。

Step-Down Transを準備いただくか日本向電圧に降圧する必要がある。さもないければ最初から電圧を指定いただき，それに適合するものを納入する。コネクターに関しては現地ですべてブラジル仕様に交換いただく。

結論的に言うと，先方の意向は全て現地対応が可能であるので，最初から納入する機材の詳細SPEC.を表示してほしい旨要請を受けた。

(4) 機材供与リストの作成

協力計画の詳細内容，年次案に応じて年次別供与機材が決定されるので，内視鏡関係と病理学的診断関係とに分けて，ご担当の先生からご報告いただくこととした。

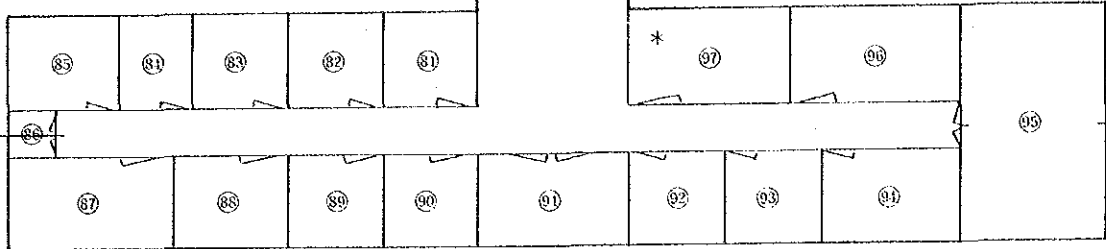
(5) その他

☆技術協力される先生方のご希望により専門の設計屋を使い詳細図面を作成されることになった。

2nd-Floor

- 81 82 83 Doctor Room,
- 84 Secretary Room,
- 85 Director Room,
- 86 Toilet for Doctor,
- 87 Meeting Room, 88 Computer Room,
- 89 Doctor Room,
- 90 Administration Room,
- 91 Store Room for Equipment

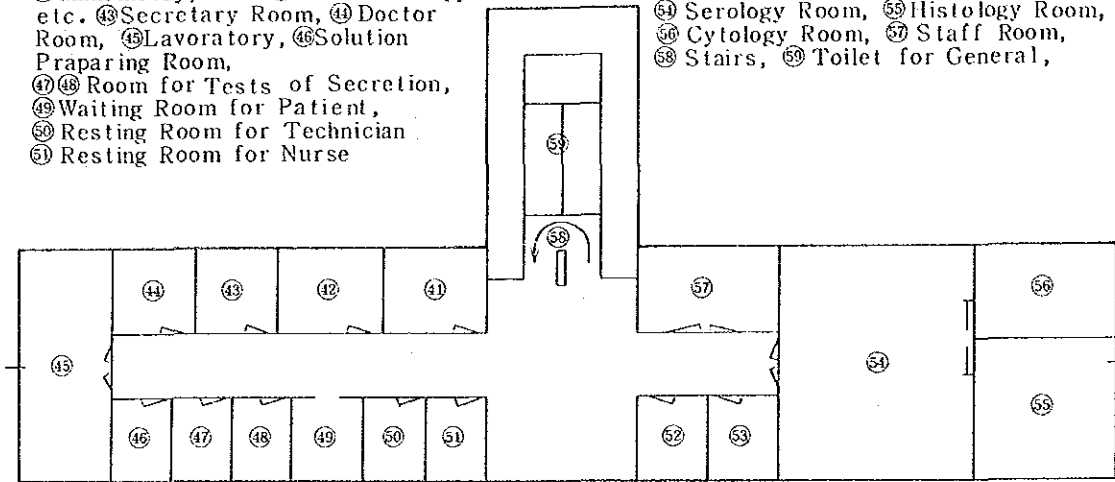
- 92 93 Doctor Room, 94 Meeting Room,
- 95 Lecture & Conference Room,
- 96 Library, 97 Discussion Room,



1st-Floor

- 41 Manometry, etc. 42 Laser therapy etc.
- 43 Secretary Room, 44 Doctor Room,
- 45 Laboratory, 46 Solution Preparing Room,
- 47 48 Room for Tests of Secretion,
- 49 Waiting Room for Patient,
- 50 Resting Room for Technician,
- 51 Resting Room for Nurse

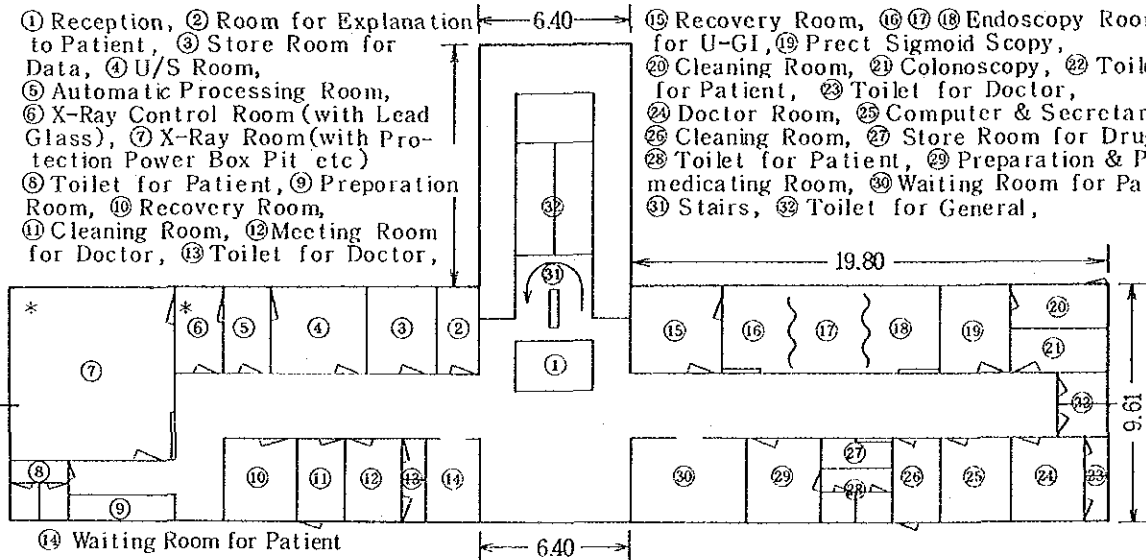
- 52 Bleeding Room, 53 Staff Room,
- 54 Serology Room, 55 Histology Room,
- 56 Cytology Room, 57 Staff Room,
- 58 Stairs, 59 Toilet for General,



Gnd-Floor

- 1 Reception, 2 Room for Explanation to Patient,
- 3 Store Room for Data, 4 U/S Room,
- 5 Automatic Processing Room,
- 6 X-Ray Control Room (with Lead Glass),
- 7 X-Ray Room (with Protection Power Box Pit etc)
- 8 Toilet for Patient, 9 Preparation Room,
- 10 Recovery Room,
- 11 Cleaning Room, 12 Meeting Room for Doctor,
- 13 Toilet for Doctor,

- 15 Recovery Room, 16 17 18 Endoscopy Room for U-GI,
- 19 Prect Sigmoid Scopy,
- 20 Cleaning Room, 21 Colonoscopy,
- 22 Toilet for Patient, 23 Toilet for Doctor,
- 24 Doctor Room, 25 Computer & Secretary Room,
- 26 Cleaning Room, 27 Store Room for Drug etc,
- 28 Toilet for Patient, 29 Preparation & Pre-medicating Room,
- 30 Waiting Room for Patient,
- 31 Stairs, 32 Toilet for General,



{ * : with Air-Condition }

(Entrance)

3.0m (1/200)
1.0m

8. 機材供与5ヶ年計画(案)

*印のものは、派遣医師が持参する。

<内視鏡>

上部消化管 関係

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				2名	4名	16名	
				1989前	1989後	1990～1993	
1	上部消化管ファイバー	オリンパス	GIF-XP ₁₀			†*	⑩～⑬
2	”	”	GIF-P ₂₀	—*	—*		”
3	”	”	GIF-XQ ₂₀			—*	”
4	”	”	GIF-Q ₂₀			†	”
5	”	”	GIF-K ₁₀				”
6	”	”	GIF-2T ₁₀			†	”
7	”	”	GIF-D ₁₀			—	”
8	”	”	GF-20		—*		”
9	食道ファイバー	”	EF-K10			—*	”
10	処置具総合セット	”		—			”

<内視鏡>

十二指腸 関係

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
11	十二指腸ファイバー	オリンパス	JF-20	—			⑩～⑬
12	”	”	IF-1T ₂₀		—		
13	”	”	TJF-10			—	
14	処置具総合セット	”		—			

<内視鏡>

下部消化官・胆道関係①

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
15	大腸ファイバー	オリンパス	CF-20 I	—	—		⑳
16	〃	〃	CF-P ₁₀ S			—*	㉑
17	〃	〃	CF-1T10 I			—	㉒
18							
19	小腸ファイバー	〃	SIF-10			—	㉓～㉔
20	処置具総合セット	〃		—			㉕

<内視鏡>

下部消化官・胆道関係②

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
21	S・Tセット	オリンパス			—		㉖
22	胆道ファイバー	〃	CHF-P ₁₀		—*		㉗
23	〃	〃	CHF-10			—*	㉘
24	処置具総合セット	〃			—		㉙
25	直腸鏡セット	〃			—	—*	㉚
26	供賢用アタッチメント	〃	LS-R		—*		㉛

<内視鏡>

光源 関係①

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
27	高輝度光源装置	オリンパス	CLV-0	⌊			⑬～⑱ ⑦
28	フラッシュ型光源装置	"	CLV-F ₀ (DS)	—		⌊	⑬～⑱ ⑱⑳
29							
30	供賢用アタッチメント	"	LS-10	⌊		⌊*	⑬～⑱ ⑱⑳⑳⑦
31	内視鏡洗浄海毒装置	"	EW-20	—		⌊	
32	高周波焼均電源装置	"	VES-10	—		—*	⑬～⑱ ㉑
33	超音波洗浄器	"	KS-1	—		—*	㉑
34	内視鏡トロリー	"	KT-1		⌊	⌊*	⑬～⑱ ⑱⑳⑳⑦
35	内視鏡スクリーンビューア	"	EV-100	⌊			⑫ ㉑
36	医用TVシステム	"	OTV-F2 (モーター・デッキ 架台)付	—			⑬～⑱
37		"					
38	内視鏡16mmカメラ	"	SC16-10	正正正			
39	ポラロイドカメラ	"	SCP-10	—			⑬～⑱
40		"					
41	実体顕微鏡	"	SZH-163			—*	⑬～⑱

<内視鏡>

ビデオ・超音波関係

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置場所			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
42	ビデオエンドスコープ	オリンパス				⌊	⑬～⑱ ㉑
43	内視鏡画像情報システム	"	SDF-3			⌊	⑬～⑱…T ㉑…
44	超音波用ファイバー	"	GF-VM2			⌊	⑬～⑱ ㉑
45	超音波装置	"	EV-XI ₂			⌊	⑬～⑱ ㉑

<内視鏡>

腹 鏡関係

品目番号	品 名	メーカー名	規 格	設 置 年 度			設置場所
				1989 前	1989 後	1990 ~ 1993	
46	内科膜腔鏡セット	オリンパス		—		—	⑫
47	自動気膜装置	"	PNE	—			⑫
48							
49	供賢用アタッチメント	"	LS-R	—			⑫
50	内視鏡 16mmカメラ	"	SC16-3R	—			⑫
51							
52							
53	笑気ガスボンベ	"		—			⑫

<レーザー><マイクロ波>

品目番号	品 名	メーカー名	規 格	設 置 年 度			設置場所
				1989 前	1989 後	1990 ~ 1993	
	YAG Laser System	モレクトロン	Model 8000			—	⑫
	マイクロターゼ	日本光電	HS-15M		—	—	⑬~⑮

<超音波>

品目番号	品 名	メーカー名	規 格	設 置 年 度			設置場所
				1989 前	1989 後	1990 ~ 1993	
	ポータブル式 超音波診断装置	東 芝	SAL32B	—*			⑬~⑮
	超音波診断装置	東 芝	SSA-100A			—	⑬~⑮ ⑰
	"	アロカ	SSD-650			—	手術室 (センター外)

** 標準構成

オプション各1本：VST-5036-3.5 (広視野用探触子)
 VST-5814-5 (浅部用探触子)
 VST-587T-5 (術中用探触子)
 VST-941-5 (浅部用探触子)
 MP-2377 (穿刺用金具；587T用)

< X 線 >

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
	X線テレビ装置	東芝	DEW-20A/850N-1A		—		⑦
	自動現像器像付属品	〃			—		⑤
	付属品	〃	かんきゅう			—*	⑦

< 周辺材器 >

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
	吸引器	オリンパス	KV-2	正	—		⑬～⑮ ⑲⑳㉑㉒
	検診台	ヤヨイ	YXT-2	下	下		⑬～⑮ ⑲⑳㉑㉒
	ファイバー保管ロッカー	〃	YEK-4-B-II	—	—	—*	⑬～⑮…T ㉑
	内視鏡鉗子用ハンガー	〃	YE-F11	下	下		⑬～⑮ ⑲⑳㉑㉒
	シャウカステン	オリオン	NH-521YG	下	下	—*	⑫⑬⑭⑮～⑲ ㉑㉒
	器械戸棚	ヤヨイ	YK-413B	下			⑬～⑮ ㉑
	プロジェクター			—		—*	㉑ ㉒
	スクリーン			—		—*	㉑ ㉒
	血圧計	日本コーリン	BP-1001	下			⑬～⑮ ㉑㉒
	心電図計	日本光電	ライクスコープ6	—		下*	⑬～⑮ ㉑㉒
	パソコン			下			㉑ ㉒
	タイプライター			下			㉑ ㉒
	セングスターケン・ブレイクモァチューブ			正正	正正		⑦

＜肝臓病理＞

品目番号	品名	メーカー名	規格	設置年度			設置場所
				1989前	1989後	1990～1993	
	顕微鏡カラーテレビ装置	オリンパス	ITC-370M			—	⑤②
	マイクローム	サクラ精機	TV-213 DONF240		—		⑤②
	パラフィン包埋ブロック作成装置	〃	テクシュ・テックⅢ		—		⑤②
	パラフィン伸展器	〃	PS-52		—		⑤②
	顕微鏡システム	オリンパス	BHS-324			—*	⑤②
	写真顕微鏡システム	〃	AHBS-514		—		⑤②
	ディスカッション顕微鏡	〃	BHS-MD0-2		—		⑤②
	画像解析装置	〃	COE-2			—	⑤②
	画像処理用コンピューター	〃				—	⑤②
	超任・温槽	リーム社(米国)	VLT-2186			—	⑤②
	冷蔵庫	〃	REL-2304			—*	⑤②
	自動固定包埋装置	サクラ精機	ETP-180B		—		⑤②

1989前 45239200—

1989後 88618200—

1990～1993 200367600—

〔 資 料 〕

1. 本センター設立のためのUNICAMP規程（英訳）
2. 同 上 （オリジナル）
3. 本センター運営体制（案）
4. 付属病院の各種統計
5. 客員教授用案内
6. 第三国との交流実績
7. 事前調査団派遣前準備資料

1. 本センター設立のためのUNICAMP 規程 (英訳)



UNICAMP

Decree No. 318/87

Let it be created, within the Faculty of Medical Sciences, The Diagnostic Center for Gastrointestinal Diseases.

PAULO RENATO COSTA SOUZA, Rector of the Universidade Estadual de Campinas, according to the regulation of Article 2 of the Statutes and

CONSIDERING

1. the technological development in the diagnostic and treatment of digestive tract diseases in the last twenty years;

2. that the Faculty of Medical Sciences/Clinical Hospital complex has turned into a region reference center in the global health plan of the greater Campinas region;

3. the due need of perfecting and invigorating the gastroenterology service of the Clinical Hospital resulting from the increase in the region demand in this area;

4. the need of maximizing the use of material and personnel resources, as well as to facilitate the interdisciplinary interaction in the medical area;

5. the extreme importance and convenience of the establishment of an integrated center of diagnosis and treatment of complex upper and lower digestive tract diseases for the improvement of medical attendance, as well as the teaching of undergraduate and graduate courses at this University.

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telephone: PABX (0192) 39-1301
Telex: (019) 1150



UNICAMP

2.

RESOLVE

Article 1- to create, within the Faculty of Medical Sciences, the Diagnostic Center of Digestive Tract Diseases, with the following objectives:

I - serve the community, coordinating and fostering technical and scientific resources for the diagnosis, control and treatment of the more complex diseases of the digestive tract, in adults as well as in children;

II - participate with the Unified and Decentralized Health Service of the Secretary of Health of the State of São Paulo (SUDS) in the defining of the degree of complexity of the different services and institutions with attention on digestive tract disease diagnosis;

III - to participate and function within the reference and contra-reference system in the area which is proposed;

IV - to integrate research activities and coordinate the service execution in the specialized areas of gastroenterology which includes digestive endoscopy, peritoneoscopy, digestive ultrasonography, specialized gastric and digestive electromanometry laboratories, in accordance to the community health programs;

V - to incentivate and collaborate in the continuing education programs and in the creation of post-graduate, training and specialization courses, aiming at training personnel for other entities of the Federation, regional hospitals, and physicians of the National Health System;

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telefone: PABX (0192) 39-1301
Telex: (019) 1150

**UNICAMP**

VI - to organize and promote courses for the training of specialized technicians to work in gastroenterology diagnostic centers;

VII - to promote scientific events and to incentivate research and publication of the results obtained;

VIII - to promote and incentivate the interdisciplinary adaption to the gastroenterology area and to the rest of the health organs and public teaching institutions;

IX - to collaborate with other universities and institutions in the implementation of services of this nature and in the implementation of policy which aims at generating the development and possible technical autonomy in gastroenterology;

X - to maintain contact with foreign teaching and research institutions in a manner to assure the exchange of knowledge and researchers, therefore, contributing to regional and national progress in the advanced field of gastroenterological diagnosis;

XI - to establish and develop specific programs of knowledge, incidence, prevalence, morbidity and lethality of the most common digestive tract pathologies in our environment;

XII - to establish and orientate services which aims to develop research in early diagnosis of digestive tract cancer;



UNICAMP

4.

XIII - to request and utilize resources of private and public institutions to support its activities;

Article 2 - the Center, in accordance to the objectives stated in the previous Article, is established as a Center of the Faculty of Medical Sciences and, at the same time, as a Service of the Clinical Hospital in the areas defined, aiming at medical assistance and research in gastroenterology.

Article 3 - The administrative structure of the Center comprises:

I - an Advisory Counsel

II - an Executive Director's Board

1st § - the Advisory Counsel constitutes:

I - the Director of the Faculty of Medical Sciences or his representative;

II - the Superintendent of the Clinical Hospital or his representative;

III - the Executive Director;

IV - the Vice Executive Director

V - the Department Heads of General Medicine, Surgery, and Pediatrics;

2nd § - The Executive Director's Board

constitutes:

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telephone: PABX (0192) 39-1301
Telex: (019) 1150



UNICAMP

I - Executive Director
II - the Vice Executive Director
III - the responsible personnel in gastroenterology of the Departments of General Medicine, Surgery, and Pediatrics.

Article 4 - The Advisory counsel must:

I - design the general lines of direction of the Center;

II - respond to the questions of the Executive Director's Board

III - demand resources in order to satisfactorily comply and perform the objectives of the Center.

Article 5 - The Executive Director's Board is responsible for the general administration of the Center in accordance with the fixed lines of direction established by the Advisory Counsel.

Article 6 - The Executive Director is responsible for:

I - the administration of the Center in accordance to the norms established by the Faculty of Medical Science Congregation and by the Center's Advisory Counsel;

II - Representing the Center

III - Calling and presiding over meetings of the Executive Director's Board;

IV - preparing an activities report of the Center for the Faculty of Medical Sciences;



UNICAMP

6.

V - complying and enforcing the set norms and regulations of the Advisory Counsel and the Executive Director's Board.

Article 7 - The Director and Vice Executive Directors are Natural members of the Center, possessing at least the title of Doctor, chosen by the Natural members group and must have their names ratified by the Faculty of Medical Science Congregation and nominated by the Rector.

Isolated Paragraph - the Director's and Vice Executive Directors' mandate is three (3) years, with prorogation prohibited.

Article 8 - The Center includes:

I - as Natural members, the faculty members of the gastroenterology disciplines of the departments of General Medicine, Surgery, and Pediatrics;

II - as Associate members, the faculty members of other departments which serve the Center;

III - as Assistant members, the personnel required to work, contracted with the approval of the coresponding department;

Article 9 - The sectors of the Center are:

I - Upper digestive endoscopy
(diagnostic and therapeutic);

II - Lower digestive endoscopy
(diagnostic and therapeutic);

III - Laparoscopy

IV - Gastroenterology Laboratory

V - Digestive ultrasonography

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telefone: PABX (0192) 39-1301
Telex: (019) 1150



UNICAMP

Isolated Paragraph - The sector head will be chosen by the Faculty members of that sector.

Article 10 - Adjunct services to the Center are:

I - radiology service of the Faculty of Medical Sciences/ Clinical Hospital;

II - Department of Pathologic Anatomy

III - Department of General Pathology

Isolated Paragraph - Other services linked to the Center will be created when necessary.

Article 11 - This decree will enter in vigor on the date of its publication.

Campinas, 30 November 1987.

PAULO RENATO COSTA SOUZA
Rector

(Unofficial translation of original "Portaria 318/87" by K. Martin,
Assessoria de Relações Internacionais)

2. 本センター設立のためのUNICAMP 規程（オリジナル）

PORTARIA Nº 318/87

Cria, na Faculdade de Ciências Médicas,
o Centro de Diagnóstico de Doenças do
Aparelho Digestivo

PAULO RENATO COSTA SOUZA, Reitor da Uni
versidade Estadual de Campinas, tendo em vista o disposto no
Artigo 2º dos Estatutos e

CONSIDERANDO

1. o desenvolvimento tecnológico no diag
nóstico e tratamento das doenças do aparelho digestivo nos
últimos vinte anos;
2. que o complexo Faculdade de Ciências
Médicas/Hospital das Clínicas vem se tornando centro regio
nal de referência no plano integrado de saúde da grande re
gião de Campinas;
3. a urgente necessidade de se dinami
zar e aperfeiçoar o serviço de gastroenterologia do Hospital
das Clínicas decorrente do aumento da demanda regional no se
tor;
4. a necessidade de se maximizar o apro
veitamento de recursos materiais e de pessoal, bem como de
facilitar a interação interdisciplinar na área médica;
5. a extrema importância e conveniência
da implantação de um centro integrado de diagnóstico e trata
mento das doenças mais complexas do aparelho digestivo alto
e baixo para o aperfeiçoamento da assistência e do ensino de
graduação e pós-graduação nesta Universidade

RESOLVE

Artigo 1º - É criado, junto à Faculdade
de Ciências Médicas, o Centro de Diagnóstico de Doenças do

Aparelho Digestivo, com os seguintes objetivos:

I - prestar serviços à comunidade, coordenando e promovendo recursos técnicos e científicos para o diagnóstico, controle e tratamento das afecções mais complexas do aparelho digestivo, tanto do adulto quanto da criança;

II - Participar junto ao Serviço Unificado e Descentralizado de Saúde da Secretaria de Saúde do Estado de São Paulo (SUDS) na definição do grau de complexidade dos diferentes serviços e instituições com atenção voltada para o diagnóstico das doenças do aparelho digestivo;

III- participar e atuar dentro do sistema de referência e contra-referência na área a que se propõe;

IV - integrar atividades de pesquisa e coordenar a execução dos serviços nas áreas especializadas da gastroenterologia que envolvem a endoscopia digestiva, peritonioscopia, a ultrasonografia digestiva, laboratório especializado de gastro e eletromanometria digestiva, em consonância com os programas de atenção da saúde da comunidade;

V - incentivar e colaborar nos progrmas de educação continuada e na criação de cursos de pós-graduação, especialização e treinamento, visando a formação de docentes para outras unidades da Federação, para Hospitais regionais e para médicos do Sistema Nacional de Saúde;

VI - organizar e promover cursos para formação de técnicos especializados para atuar em centros de diagnóstico em gastroenterologia;

VII- promover eventos científicos e incentivar a pesquisa e publicações dos resultados obtidos;

VIII- promover e incentivar o entrosamento interdisciplinar na área da gastroenterologia e com os demais órgãos da saúde e instituições públicas de ensino;

A
✓

IX - colaborar com outras Universidades e Instituições na implementação de serviços desta natureza e na implementação de uma política que vise gerar desenvolvimento e possível autonomia técnica na área da gastroenterologia;

X - manter contacto com instituições estrangeiras de ensino e pesquisa de maneira a assegurar o intercâmbio de conhecimentos e de pesquisadores,, contribuindo assim para o progresso regional e nacional no campo avançado do diagnóstico na gastroenterologia;

XI - implantar e desenvolver programas específicos para o conhecimento, incidência, prevalência, morbidade e letalidade das patologias do aparelho digestivo mais comuns no nosso meio;

XII - implantar e orientar serviços que visem o desenvolvimento da pesquisa no diagnóstico precoce do câncer do aparelho digestivo;

XIII - solicitar e utilizar recursos de instituições privadas e governamentais para apoiar seus programas de atividades.

Artigo 2º - O Centro, de acordo com os objetivos enunciados no Artigo anterior, se constitui em Centro da Faculdade de Ciências Médicas e, ao mesmo tempo, Serviço do Hospital das Clínicas nas áreas definidas, voltado para a prestação de assistência e pesquisa em gastroenterologia.

Artigo 3º - A estrutura administrativa superior do Centro compreende:

- I - Conselho Consultivo
- II - Diretoria Executiva

§ 1º - O Conselho Consultivo se constitui:

- I - pelo Diretor da Faculdade de Ciências

cias Médicas ou um seu representante que o presidirá;

II - pelo Superintendente do Hospital das Clínicas ou um seu representante;

III- pelo Diretor Executivo;

IV - pelo Vice-Diretor Executivo;

V - pelos Chefes dos Departamentos de Clínica Médica, Cirurgia e Pediatria.

§ 2º - A Diretoria Executiva se constitui:

I - pelo Diretor Executivo;

II - pelo Vice-Diretor Executivo;

III- pelos responsáveis pelas disciplinas de gastroenterologia dos Departamentos de Clínica Médica, Cirurgia e Pediatria.

Artigo 4º - Ao Conselho Consultivo compete:

I - traçar as diretrizes gerais de funcionamento do Centro;

II - responder às consultas da Diretoria Executiva;

III- demandar recursos para o bom cumprimento e desempenho dos objetivos do Centro.

Artigo 5º - À Diretoria Executiva compete a administração geral do funcionamento do Centro em consonância com as diretrizes fixadas pelo Conselho Consultivo.

Artigo 6º - Ao Diretor Executivo compete:

I - administrar o Centro em consonância com as normas estabelecidas pela congregação da Faculdade de Ciências Médicas e pelo Conselho Consultivo do Centro.

II - representar o Centro;

III- convocar e presidir as reuniões da Diretoria Executiva;

IV - apresentar à Faculdade de Ciências Médicas relatório das atividades desenvolvidos pelo Centro;

V - cumprir e fazer cumprir as normas e diretrizes emanadas do Conselho Consultivo e da Diretoria Executiva.

Artigo 7º - O Diretor e o Vice-Diretor Executivos são membros Titulares do Centro, portadores de no mínimo o título de Doutor, escolhidos pelo conjunto dos membros Titulares e deverão ter seus nomes homologados pela Congregação da Faculdade de Ciências Médicas e nomeados pelo Reitor.

Parágrafo Único - O mandato do Diretor e do Vice-Diretor Executivos é de três (3) anos, sendo vedada a recondução.

Artigo 8º - Fazem parte do Centro:

I - como Membros Titulares, os docentes das disciplinas de gastroenterologia dos Departamentos de Clínica Médica, Cirurgia e Pediatria;

II - como Membros Associados, os docentes de outros Departamentos que prestam assistência ao Centro;

III- como Membros Assistentes, os servidores requeridos para a prestação de serviços, contratados com a aprovação do Departamento correspondente à sua área de atuação.

Artigo 9º - São setores do Centro:

I - Endoscopia digestiva alta (diagnóstica e terapêutica);

II - Endoscopia digestiva baixa (diagnóstica e terapêutica);

III- Laparoscopia;

IV - Laboratório de gastroenterologia;

V - Ultra-sonografia digestiva.

Parágrafo Único - O chefe de Setor será escolhido pelos docentes que nele prestam serviço. *

Artigo 10 - São Serviços Agregados ac
Centro:

I - Serviço de Radiologia da Faculdade
de Ciências Médicas/Hospital das Clínicas;

II - Departamento de Anatomia Patológica;

III-Departamento de Patologia Clínica.

Parágrafo Único - Outros Serviços Agregados serão criados, quando necessário.

Artigo 11 - Esta Portaria entra em vigor na data de sua publicação.

Campinas, 30 de novembro de 1.987


PAULO RENATO COSTA SOUZA
Reitor

3. 本センター運営体制(案)



GASTROENTEROLOGICAL DIAGNOSIS AND RESEARCH
CENTER OF THE STATE UNIVERSITY OF CAMPINAS
COOPERATION PROJECT JICA/UNICAMP.

UNICAMP

A. Introduction

The Diagnostic Center for Digestive Tract Diseases was recognized by the Rector of UNICAMP on November 30, 1987 by decree no. 318/87, being linked to the Faculty of Medicine, having the purpose to supply medical assistance to the patients of the Clinical Hospital, as well as to the reference region.

B. Administrative Make-Up

1. Executive Director of the Center

The Director of the Center, is the present Director of the Endoscopy Service, Prof. Dr. Nelson Brandalise.

2. Scientific Coordinators

There will always be two scientific coordinators representing both countries.

a. The Brazilian scientific coordinator will be Prof. Dr. Frederico Magalhães.

b. The Japanese scientific coordinator will be Prof. Masao Fujimaki or his representative.

3. Project Coordinator

The project coordinator will be Prof. Dr. José Carlos Pareja.

4. Project General Secretary

The project general secretary will be Dr. Ademar Yamanaka.



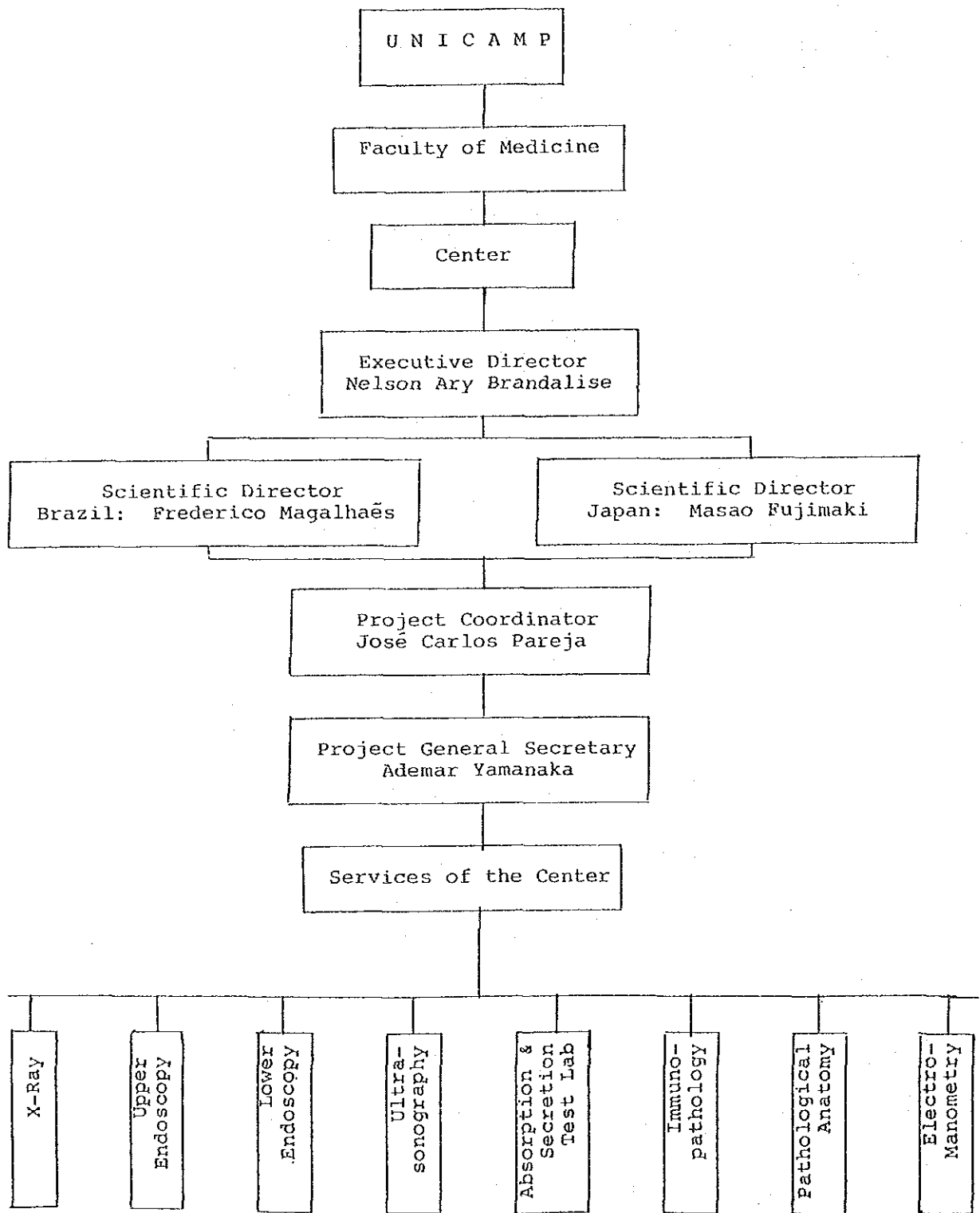
UNICAMP

5. Services of the Center

The Center will provide the following services.

- a. Upper Digestive Endoscopy Services (esophagus, stomach, duodenum and pancreas.) Prof. Nelson Ary Brandalise and Dr. Francisco Callejas Neto.
- b. Lower Digestive Endoscopy Service (colon endoscopy) Dr. Juvenal Ricardo Navarro Góes.
- c. Digestive Ultrasonography Service. Dr. José Carlos Pareja and Dr. Ademar Yamanaka
- d. X-Ray Services. Dr. Livio Nani and Dr. Irene Harumekamaia Barcellos.
- e. Absorption and Secretion Test Laboratory. Dr. Adriana Sevá Pereira
- f. Immunopathology Laboratory. Brazil Dr. _____ and Japan Dr. _____
- g. Pathology Laboratory. Dr. Athanase Billis and Japanese Dr. _____
- h. Electromanometry Laboratory. Prof. Dr. Nelson Adami Andreollo.

ORGANIZATION CHART
FOR THE
DIAGNOSTIC CENTER FOR DIGESTIVE TRACT DISEASES



4. 付属病院の各種統計

4-1 1986年の診療科別外来患者数は表のとおり。

表中、女性・男性のスクリーニング科の内容を聴取したところ、患者の中にはどこが、いつから痛いか表現できない人がいるとの由である。かかる患者に対しても何らかの医療サービスを与える必要があるのが伯国の実態といえる。

右表から1986年においては1月当たり1万4千人から2万4千人の外来があり年間によると24万人の患者が本病院を利用している。

また、4-2の表からは1987年9月には、1ヶ月当たり2万9千人余に増加していることがわかる。なお右内2万人余(71%)が被保険者であるところから、4-5表のとおり収入がある。

病院収入と運営コストについては、実施協議の際に詳しく調査しておく必要がある。

診療科別外来者数 (1986年)

科 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月計	
内 科	2267	2545	3028	3072	2585	2721	3109	3017	2950	3306	2904	1939	33443
外 科	692	791	836	753	870	1092	1178	1035	1049	1037	951	645	10929
遺 伝 病	10	38	54	62	50	59	58	62	63	67	63	42	628
婦 人 科	2688	2357	2560	2279	2077	2261	3125	2768	2825	3059	3173	2316	31488
脳 科	438	409	629	528	522	755	809	782	755	888	899	504	7918
眼 科	1170	1342	1904	1892	1694	2553	2565	2238	2410	2128	2208	1149	23253
整 形 外 科	283	405	462	615	445	454	475	491	585	544	541	302	5602
小 児 科	1616	1220	1678	1594	1048	1199	1416	1170	1345	1422	1465	1028	16201
精 神 科	52	164	241	177	159	336	210	402	492	639	544	345	3761
麻 酔 科	30	9	20	27	22	20	29	33	29	41	30	27	317
一般医師サービス	501	423	723	528	198	170	295	323	419	344	350	281	4555
大学付属センターよりの患者	44	41	48	53	2422	2816	3514	3542	3936	3677	3510	2678	26281
20km(ウツリネ)のHealth Center	2117	1417	1486	678	1957	2137	2534	2543	2665	2745	2613	2410	25302
ソハビリセンター	0	0	400	147	1607	984	267	777	913	818	815	149	6877
歯 科 外 来	223	756	300	51	0	0	0	0	0	0	0	0	1330
”	212	0	447	0	0	0	0	0	0	0	0	0	659
女性だけの外来	350	290	327	102	427	310	0	0	0	0	0	0	1806
乳ガン外来	234	299	248	364	0	0	0	0	0	0	0	0	1145
	114	144	524	381	0	0	0	0	0	0	0	0	1163
大学病院サービス	0	77	172	166	106	1166	3432	3441	3809	4044	4367	4199	24979
女性のスクリーニング	703	672	529	398	627	587	826	272	132	0	0	0	4746
予防的婦人科	309	0	289	135	224	297	211	107	0	0	0	0	1576
男性のスクリーニング	312	226	204	437	164	73	0	0	0	0	0	0	1416
Fristaid	814	880	612	665	870	431	0	0	0	0	0	0	4272
Cardiac Screeujng	0	0	0	0	0	0	0	0	157	217	193	24	591
合 計	15179	14505	17721	15104	18074	20421	24053	23003	24534	24976	24626	18038	240234

4-2 1987年9月の(1)外来患者統計、(2)男女別、(3)新患再来別、(4)年令別、(5)保険別統計は以下のとおり。

	計	旧平均	%
(1) 外来患者統計	28,867	962	100
(2) 男女別(女)	18,050	602	63
(男)	10,817	361	37
(3) 新患・再来別(新患)	6,489	216	22
(同上)	4,890	163	17
(再来)	17,488	583	61

(4) 年令別	計	旧平均	%
12才まで	5,268	176	18
13～19才	2,679	89	9
20～29才	7,076	236	25
30～39才	5,021	167	17
40～49才	3,240	108	11
50～59才	2,426	81	8
60～69才	1,538	51	5
70才以上	989	33	3
BEM DATA	630	21	2

(5) 保険別	計	旧平均	%
保険	20,417	681	71
公務員保険	803	27	3
保険ナシ	2,728	91	9
その他	1,183	39	4
不明	3,736	125	13

4-3 1987年9月の入院患者統計

下表のとおりであるが、右よりも消化器系疾患が多いことが理解される。

1987年9月の入院患者統計

	入 院			
	MASC	FEM	INFANTIL	TOUAL
Enfermarias				
E. G. A.	47	30	—	77
Otorrinolaringologia	29	28	—	57
Oftalmologia	32	18	—	50
Urologia	24	8	—	32
Ortopedia	17	12	—	29
Traumatologia	5	8	—	13
Plastica	4	9	—	13
Gastro Cirurgia	38	20	—	58
Gastro Clinico	11	9	—	20
Cardiologia	13	12	—	25
Uascular	6	4	—	10
M. Infecciosas	20	16	—	36
U. T. I.	14	14	—	28
Endocrinologia	4	4	—	8
Dermatologia	5	—	—	5
Reumatologia	6	9	—	15
Hematologia	9	3	—	12
Pneumologia	20	4	—	24
Neurologia	14	15	—	29
Toraxica	8	5	—	13
Nefrologia	19	14	—	33
Cabeça e Pescoco	5	—	—	5
Retaguarda	34	23	—	57
Pediatria	—	—	79	79
Oncologia	2	—	—	2
Psiquiatria	4	6	—	10
TOTAL	390	271	79	740
CAISM:CECAM	—	131	—	131
Ginecologia	1	142	—	143
Pat. Obstetrica	—	100	—	100
U. T. I. Pat. Obst.	—	9	—	9
Aloj. Conjunto	—	212	—	212
Bercario	—	—	37	37
TOTAL	1	594	37	632
TOTAL GERAL C/bercario	391	865	116	1372

4-4 1987年9月病棟統計

(1) ベッド使用率

1987年9月病棟統計			
	本院	産科	計
Occupied	244	113	357
入院	740	632	1372
他科への移動	235	61	296
退院	683	591	1274
他病院へ	227	69	296
死亡	52	8	60
1日当り患者	6888	2663	9551
残 Vacaut	40	34	74
平均 / day	225,6	88,8	318,4
平均滞在内数	9,4	4,4	7,2
%	124,0	60,4	73,9
回転率	2,6	4,1	3,1
前月より繰越	231	88	319
次月への繰越	244	113	357
死亡率	7,1	1,3	4,5
死亡	—	—	55,91

(2) 診療科別入院統計

ENFERMIARIAS	前月(8月分)より	新患入院	病内で他科より病院	退院	退院他の病院へ	死亡	残 B E D	次月へ継続
E. G. A.	21	77	17	63	21	3	2	28
Otorrinolaringologia	4	57	—	60	—	—	5	1
Oftalmologia	4	50	1	49	1	—	1	5
Urologia	7	32	3	31	4	—	3	7
Ortopedia	16	29	7	32	4	—	—	16
Traumatologia	—	13	—	5	1	—	1	7
Plastica	1	13	1	12	—	—	1	3
Gastro Cirurgia	24	53	27	63	21	—	3	25
Gastro Clinico	8	20	4	21	4	—	1	7
Cardiologia	10	25	15	33	6	—	1	11
Uascular	8	10	3	11	2	—	—	8
M. Infeccio	15	36	13	40	11	3	8	10
U. T. I.	6	28	31	5	42	11	1	7
Endocrinologia	3	8	1	5	3	—	—	4
Dermatologia	6	5	2	9	1	—	3	3
Reumatologia	3	15	1	12	4	—	1	3
Hematologia	7	12	2	11	2	2	—	6
Pneumologia	8	24	8	22	5	4	—1	9
Neurologia	15	29	14	37	7	—	—	14
Toraxica	4	13	4	16	2	—	1	3
Nefrologia	4	33	10	30	9	1	5	7
Cabeca e Pescoco	3	5	2	5	2	1	2	2
Retaguarda	15	57	24	31	32	18	—	15
Pediatria	27	79	42	69	42	9	5	28
Oncologia	2	2	—	3	—	—	1	1
Psiquiatria	10	10	3	8	1	—	—4	14
TOTAL	231	740	235	683	227	52	40	244
CAISM:U. T. I. —Obst.	1	9	7	3	14	—	4	—
CECAM	27	131	1	120	—	8	4	31
Ginecologia	24	143	9	136	11	—	—1	29
Pat. Obstetrica	13	100	24	95	28	—	2	14
Aloj. Conjunto	15	212	20	207	16	—	—	24
Bercario	8	37	—	30	—	—	25	15
TOTAL c/Bercario	88	632	61	591	69	8	34	113
TOTAL GERAL	319	1372	296	1274	296	60	74	357

4-5 付属病院 1987年8月の保険区分別病院の収入統計

SERVICOS PRODUZIDOS

AGOSTO/87

外科	数	金額	合計	I. U. H. (CZS)
Cirurgia de Porte I	--			
Cirurgia de Porte II	--			
Cirurgia de Porte III	--			
Cirurgia de Porte IV	450	712.90	320,805.00	577,449.00
Cirurgia de Porte V	67	1,924.90	128,968.30	232,142.94
Cirurgia de Porte VI	--			
TOTAL I. U. H. (CZS)				809,591.94
外来				
Consulta de Porte I	19,240	124.40	2,393,456.00	4,308,220.80
Consulta de Porte II	4,445	186.20	827,659.00	1,489,786.20
Consulta de Porte III	2,684	499.80	1,341,463.20	2,414,633.76
Consulta Odontológica (齒科)	2,086	124.40	259,498.40	467,097.12
Consulta Odontológica (F. O. P)	4,682	124.40	582,440.80	1,048,393.44
TOTAL I. U. H. (CZS)				9,728,131.32
科別				
Hemodialise	130	3,027.00	393,510.00	708,318.00
Dialise Peritonial	41	2,983.50	122,323.50	220,182.30
Endoscopia Ap. Rigido	399	339.60	135,500.40	243,900.72
Endoscopia Ap. Flexivel	229	811.40	185,810.60	334,459.08
Medicina Nuclear-in vitro	521	313.50	163,333.50	294,000.30
Estudo Hemodinamico	2	17,909.50	35,819.00	64,474.20
Ex. Radiológicos Contrastados	168	1,067.20	179,289.60	322,721.28
Angiografia e Neurodiologia	5	6,657.50	33,287.50	59,917.50
Quimioterapia do Câncer	91	931.40	84,757.40	152,563.32
Fisioterapia	376	219.70	82,607.20	148,692.96
Fonoaudiologia	23	433.80	9,977.40	17,959.32
TOTAL I. U. H. (CZS)				2,567,188.98

(注) Porte は保険の区分, 区分明細は実施協議の際調査しておいて頂きたい。

4-6 上部消化管内視鏡診断統計

1987年1月より8月迄の1200例を疾患別にすると以下のとおり。

食道静脈りゅうが多いことが伺える。

ENDOSCOPIA DIGESTIVA ALTA

LEVANTAMENTO DE 1,200 FICHAS DE JANEIRO/87 A AGOSTO/87 DOS SEGUI
NTES DIAGNÓSTICOS:

NORMAL-(0)- 241

INCONCLUSIVO-(00)- 08

1 - ESOFAGO

1/1 - Corpo Estranho-03

1/2 - Divertículo-04

1/3 - Esofagite Péptica-98

1/4 - Esofagite Cáustica-11

1/5 - Estenose Péptica-11

1/6 - Hérnia Hiatal-62

1/7 - Megaesôfago-17

1/8 - Mallory Weiss S.-04

1/9 - Monilíase-01

1/10 - Perfuração + Rutura-0

1/11 - Pólipo-03

1/12 - Septos - Anéis-03

1/13 - Tumor Benigno + Submucoso-0

1/14 - Tumor Maligno-39

1/15 - Varizes Esofagianas-115

1/16 - Outros-29

PROCEDIMENTOS

1/17 - Dilatação do Esôfago-04

1/18 - Esclerose de Varizes-23

1/19 - Polipectomia-0

1/20 - Esofagectomia-07

1/21 - Megaesôfago Operado-05

2 - ESTOMAGO

2/1 - Alterações Mínimas-98

2/2 - Câncer de Coto Gástrico-04

- 2/3 - Corpo Estranho - 0
- 2/4 - Câncer Gástrico - 34
- 2/5 - Erosão Isolada - 27
- 2/6 - Estômago Operado (Gastrectomia BI, BII, Y) + Gastrectomia Total - 72
- 2/7 - Estase Gástrica - 08
- 2/8 - Estenose Pilórica - 02
- 2/9 - Gastrites Agudas - 111
- 2/10 - Gastrite Alcalina - 21
- 2/11 - Gastrite Hipotrófica + Atrófica - 14
- 2/12 - Gastrite Hipertrófica - 03
- 2/13 - Gastrite Crônica - 31
- 2/14 - Malformação - 01
- 2/15 - Metaplasia - 05
- 2/16 - Pílorite - 06
- 2/17 - Polipose - 02
- 2/18 - Pólipos Solitários - 20
- 2/19 - Tumor Benigno - 0
- 2/20 - Úlcera de Boca A
- 2/21 - Úlcera Gástrica - 78
- 2/22 - Varizes Gástricas - 04
- 2/23 - Vagotomia Superselectiva - 04
- 2/24 - Outros - 21

PROCEDIMENTOS

- 2/25 - Polipectomia - 01

3 - DUODENO

- 3/1 - Cicatriz de Úlcera - 45
- 3/2 - Deformidade Bulbar - 30
- 3/3 - Divertículo - 02
- 3/4 - Duodenites Agudas - 45
- 3/5 - Estenose Duodenal - 05
- 3/6 - Erosão Isolada - 02
- 3/7 - Pólipos ou Tumor Benigno - 04
- 3/8 - Tumor Maligno - 0
- 3/9 - Tumor de Papila

3/10 - Úlcera Duodenal - 114

3/11 - Outros - 16

3/12 - Duodenite Erosiva - 31

PROCEDIMENTOS

3/13 - Biópsia Jejunal - 05

3/14 - Colangiopancreatografia - 01

3/15 - Papilotomia - 0

4 - HEMORRAGIA DIGESTIVA

4/1 - do duodeno - 10

4/2 - do estômago - 13

4/3 - do esôfago - 11

4/4 - indeterminada - 05

PROCEDIMENTOS

4/5 - Tratamento Endoscópico da Hemorragia Digestiva - 03

4 - 7 内視鏡診断の現況と実績

内視鏡診断は1969年に開始され現在まで16,180例(1987年1月~10月迄は1,663例詳細は表のとおり。)

Bgiuning a Ativitces : 1969/1970

INICIO DE ATIVIDADES : 1969/1970

Total # a Endoscopic Exams :

TOTAL DE EXAMES ENDOSCÓPICOS REALIZADOS : 16,180

of Erdo. Exams in 1987 until Octobe

NO DE EXAMES ENDOSCÓPICOS REALIZADOS EM 1987 até outubro..... 1,663

-anexo gráfico see gcaph

ATIVIDADES GLOBAIS DO SERVICO ATE outubro/87 : 2,370

Tatal servuiee until 10/87 :

ESTATÍSTICA DO SERVIÇO DE ENDOSCOPIA DIGESTIVA ALTA STATISTICS of Upper Digestive Endoscopy

Total Geral

Mes de Agosto/87 August

Mes de Julho/87 July

Mes de Junho/87 June

Endoscopia: 197
 Dilatação : 07
 Esclerose : 24
 Ecografia : 72
 Manometria: 09
 Peritonio : 03
Total : 312

Endoscopia: 156
 Dilatação : 10
 Esclerose : 17
 Ecografia : 104
 Manometria: 07
 Peritonio : 03
Total : 297

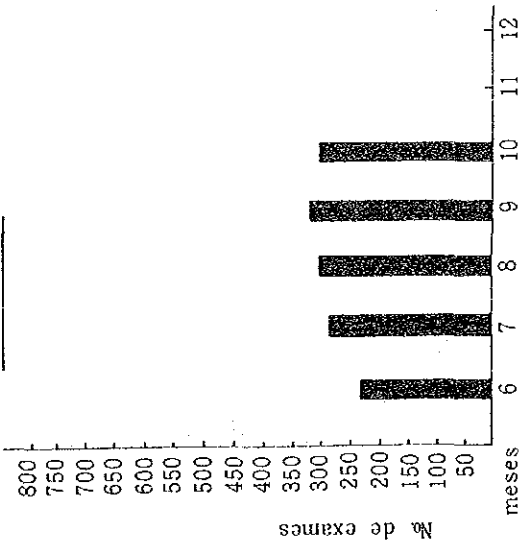
Endoscopia: 145
 Dilatação : 03
 Esclerose : 28
 Ecografia : 67
 Manometria: 03
 Peritonio : —
Total : 246

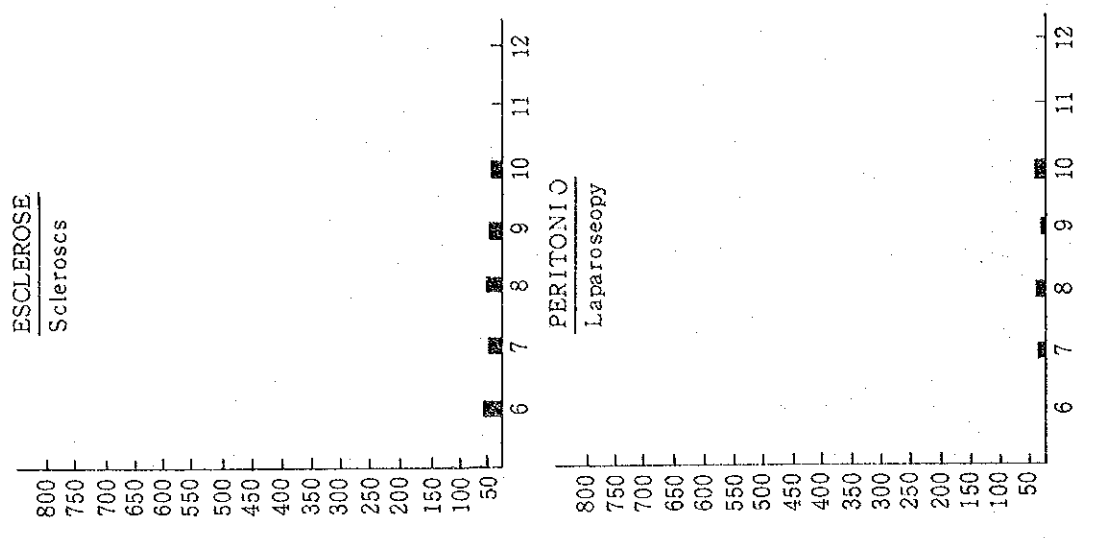
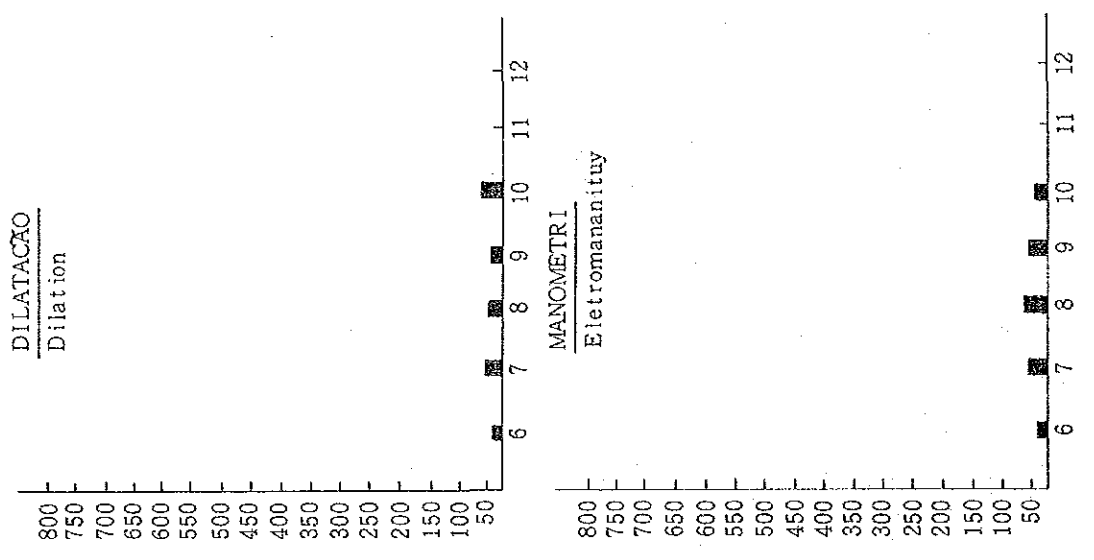
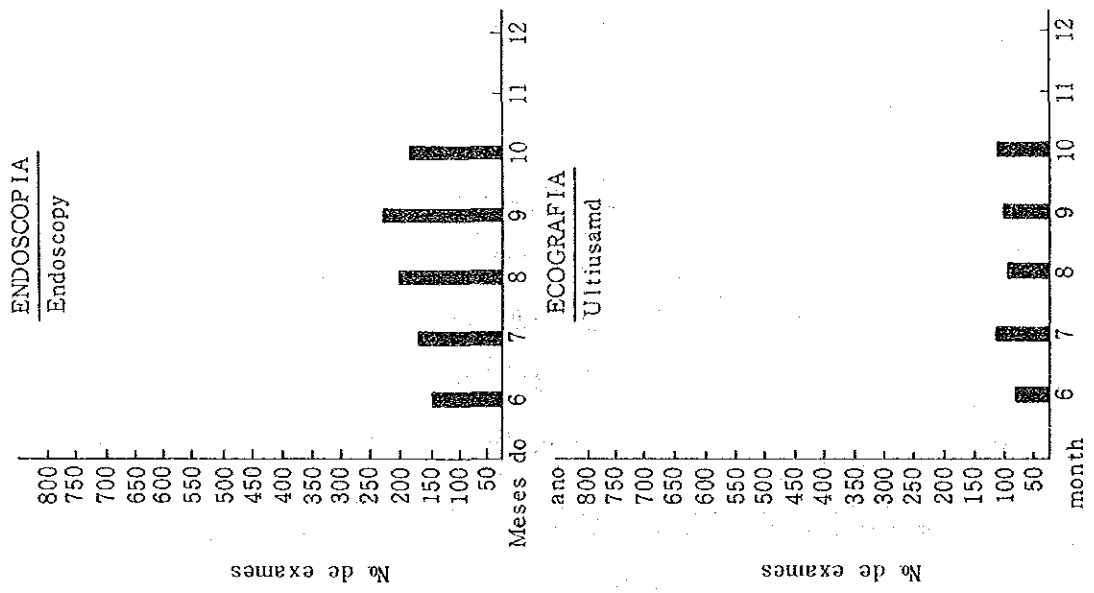
MES DE Outubro/87

Mes de Setembro/87

Endoscopia: 187
 Dilatação : 17
 Esclerose : 18
 Ecografia : 95
 Manometria: 04
 Peritonio : 05
Total: 320

Endoscopia: 209
 Dilatação : 06
 Esclerose : 21
 Ecografia : 76
 Manometria: 08
 Peritonio : 02
Total: 322





4-8 消化器ラボ検査の実情

LABORATÓRIO DE GASTROENTEROLOGIA	外 来	入 院	計
Exame direto de fezes	38	33	71
Aalanco de gordura	19	8	27
Teste de suor	15	—	15
T. E. U. D-Xilose	—	1	1
T. T. H. C. (lactose)	6	1	7
Biópsia intestinal	1	—	1
Teste de secreção gástrica	—	1	1
TOTAL	79	44	123

4-9 臨床病理検査 (1987年9月)

LABORATÓRIO DE PATOLOGIA CLÍNICA	外 来	入 院	計
Bioquímica	3922	4847	8769
Parasitologia	2463	534	2997
Hematologia Clínica	2996	2686	5682
Hormônios	362	88	450
Imunologia Clínica	1747	992	2739
Microbiologia Clínica	1101	2036	3137
Urina	1276	575	1851
Outros	129	59	188
TOTAL	13996	11817	25813
Pactes registrados na coleta	5318	2581	7899
Laboratório de Emergência : Coleta : Exames :			4611
	Hematologia		2218
	Urina		440
	Basometria		1182
	Bioquímica		4816
	Bacterioscopia		1
	LCR		192
	TOTAL		8849



5. 容員教授用UNICAMP 案内

GENERAL INFORMATION
FOR THE
FOREIGN VISITING
PROFESSOR

ASSESSORIA DE
RELAÇÕES INTERNACIONAIS

UNIVERSIDADE ESTADUAL DE
CAMPINAS

UNICAMP

WELCOME TO THE UNIVERSIDADE ESTADUAL DE CAMPINAS

UNICAMP

The following information will help you plan your trip to Brazil and to develop your teaching and research activities at UNICAMP.

THE UNIVERSIDADE ESTADUAL DE CAMPINAS

UNICAMP

The University campus is named after its founding father, Zeferino Vaz, one of Brazil's most renowned educators who dreamed of UNICAMP and saw its birth in 1966. The sloping verdant meadows where it is located were, in the past, a cradle for coffee and sugar cane plantations. It is now a 2-million square meter university campus, luxuriant with parks, lawns and flowering trees.

The University has approximately 7250 undergraduate and 5000 graduate students. The majority of undergraduate students come from the São Paulo region, while the graduate students come from literally all over the nation. The large proportion of graduate students is unique in Brazil, demonstrating UNICAMP's research-oriented nature. The academic staff includes nearly 1,900 full-time professors, almost all having worked in overseas institutions or holding diplomas from universities outside of Brazil.

Since its foundation, UNICAMP has tremendously valued the presence of foreign students and professors in its academic community as a welcome sign of vitality; understanding that university experience and scientific knowledge in today's world are international realities. A university which becomes isolated is condemned to sterility. Today, there are 460 foreign students studying at UNICAMP from many European, American, African and Asian countries, mainly coming through the Brazilian Bilateral Cultural Cooperation Agreement. UNICAMP has also developed many international contacts through collaboration in research programs, and staff and student exchanges. Formal links have been established with institutions from more than 26 countries. The University also operates undergraduate student exchange programs with France, Japan, and the United States which attract many students to UNICAMP each year.

Within UNICAMP, there are nine Faculties and nine Institutes which are listed below:

EXACT AND TECHNOLOGICAL SCIENCES

1. Institute of Physics
2. Institute of Mathematics, Statistics and Computer Science
3. Institute of Chemistry
4. Faculty of Agricultural Engineering
5. Faculty of Food Engineering
6. Faculty of Engineering of Campinas
7. Faculty of Electrical Engineering
8. Faculty of Engineering of Limeira *
9. Institute of Geosciences

ARTS AND HUMANITIES

10. Institute of Languages Studies
11. Institute of Philosophy and Humanities
12. Institute of Arts
13. Institute of Economics
14. Faculty of Education

BIOLOGICAL AND HEALTH SCIENCES

15. Institute of Biology
16. Faculty of Medical Sciences
17. Faculty of Dentistry of Piracicaba *
18. Faculty of Physical Education

* The cities of Limeira and Piracicaba are located respectively 60 km and 75 km from Campinas.

International Relations Office

The principal attributions of the Assessoria de Relações Internacionais (ARI) is to promote the scientific, technological, and cultural exchange between UNICAMP and international institutions (developing, coordinating, and accompanying more than 80 international exchange agreements) and to establish global policies for international cooperation.

ARI also provides information on immigration procedures for professors from international institutions visiting UNICAMP, as well as promotes and coordinates the exchange student programs between UNICAMP and the State University of New York at Albany (USA), Gifu University (JAPAN), and the Institut National de Sciences Appliqués, Lyon (FRANCE).

The Library

UNICAMP is served with a Central Library and individual libraries in each Faculty and Institute. The Library holdings cover a whole range of subjects at the University. It now stands at over 200,000 items including books, journals, pamphlets, government and other official reports. The Library also subscribes to over 5000 periodicals. Besides this, UNICAMP is becoming a renowned center of special private collections concentrating on regional and national history preservation, to which students also have access.

The Communication Center

The Centro de Comunicação offers a wide range of services to the entire UNICAMP community. The service includes the production of teaching materials, advice on technology and learning skills, and the provision of media equipment to all departments.

Health Service

Health care service is provided free of charge for all students, staff, and faculty through the University Infirmary (CECOM) and Clinical Hospital. Those who intend to travel out of town would be wise to secure medical insurance in his/her home country providing foreign coverage. Private health insurance plans are available in Brazil. The office "Serviço de Apoio ao Estudante" provides additional information on available health care service.

Private hospitals and clinics in Campinas offer excellent medical services. Dental care is also considered very good, but quality and specialization may vary. Medical care costs generally are high. Many internationally brand-named medicines are available in Brazilian pharmacies. However, you may wish to stock up on preferred or special prescription medicine until you become acquainted with the medicine sold in Brazil. All visual aids are available in Campinas, however, not all contact lens care supplies may be available.

Arts

The University is becoming more and more renowned for its active groups in Fine Arts.

The Music Department promotes a series of noon-time concerts which are held daily. These concerts not only offer tremendous opportunities for students and staff to perform, but also bring celebrated musicians to the campus.

Apart from the noon-time concerts the staff and students engage in a wealth of musical activities. There is a Chamber Orchestra and the UNICAMP Choir. Visiting professional musicians take part in seminars and master classes for students. Outdoor concerts and other performances by students and staff are held monthly on the 'Praça da Paz.' Top popular music performers appear regularly in concerts arranged by the 'Assessoria de Apoio a Eventos.' The Fine Arts Theatre is designed to be adapted for a wide range of entertainment from concerts and plays by student groups, to mime and dance presentations, multimedia productions, films and exhibitions.

The Department of Visual Arts offers workshops for ceramics, sculpture, painting and other work. There is also an artist-in-residence. Specialist exhibitions are planned and mounted in the two art galleries located on campus.

Sports and Recreation

UNICAMP has excellent indoor and outdoor facilities enabling students to take part in a wide range of sports and recreational activities. There is a semi-olympic swimming pool, 13 outdoor polysport courts, 3 indoor courts including a high and long jump box, rooms appropriate for dance, and an 875-meter training course with obstacles.

Meal Service and Transportation

UNICAMP provides a good midday meal in our two cafeterias for all students and staff at a nominal price. Snack bars and canteens are also located throughout the campus.

There is regular city bus service from downtown Campinas to UNICAMP.

CAMPINAS, THE CITY

The University campus lies 16 Kilometers from downtown Campinas, a city originally named for its meadows. Today, with a population of about 1 million people, Campinas is an important and growing educational, industrial and financial center. The city has its own Symphony Orchestra -- considered one of Brazil's best -- cinemas, theatres, museums, parks, and fine shopping facilities. Restaurants serving a range of cosmopolitan food, and pubs or 'barzinhos' are popular forms of entertainment. Campinas is also the home of two of Brazil's best soccer teams.

Recreation outside of Campinas is also rich and varied. São Paulo, one of the world's largest cities and cultural centers, is located only 97 kilometers west of Campinas -- a one-hour drive by car or bus. Many country resorts and parks are easily reached, offering a taste of life in the 'interior.' The coast, with its famous beaches, is only a two-hour drive away.

Campinas is served by a good transportation network. The bus service is the most common means of transportation. The Viracopos International Airport is only a 30-minute drive from Campinas. We do not recommend a taxi for long distances since it can be very expensive.

Getting to Campinas

Bus service from the Guarulhos Airport in São Paulo

To travel from the International Airport in São Paulo to Campinas, one should go to the lower level of the terminal and take the bus (blue) for the São Paulo bus station (Estação Rodoviária.) This bus leaves the airport every 30 minutes.

From the Estação Rodoviária, the bus company Cometa provides transportation to Campinas. The trip lasts approximately one and a half hours. It will arrive at the Campinas Estação Rodoviária. Local buses depart from the Estação Rodoviária to the Barão Geraldo Terminal where one must transfer to the UNICAMP bus.

Bus service from the Viracopos Airport

There is a bus which leaves every 40 minutes for the Terminal Central located below the 'Miguel Vicente Dury' viaduct in Campinas. Here, the local bus 'Vermelhão' departs for the terminal in Barão Geraldo where you must transfer to the UNICAMP bus.

Housing

As there are no housing facilities on campus, most visiting professors rent furnished apartments. They are obtained through rental agents or advertised in the newspapers. You might put the word out to counterparts here at Unicamp to help you locate quarters. It is important to know however, that housing possibilities in Campinas or Barão Geraldo will vary enormously and that you will not find a wide range of housing offerings at a reasonable price.

Furnished one-bedroom, monthly apartment rents begin at about US\$250 and go as high as US\$800 or more, plus utilities. A one-month deposit as an insurance against possible breakage is usually required. Before signing a contract, ask the owner to use the one-month security deposit for the last month's rent. It is good to insert a "diplomatic clause" in the contract which stipulates that, if you leave the country prior to termination of your contract with a 30-day notice, the security deposit will be returned.

Do not sign a contract to pay in dollars, but you may be asked to pay dollar equivalents. Also, the rent could be stipulated in QTN's (a cruzado value index), readjustable from time to time. Many owners will also require a "fiador" or cosigner for the contract.

Some professors prefer to live in a pension during their stay in Brazil. Others live with families, usually obtaining a private room and bath sharing some meals.

TRAVELING TO BRAZIL

Climate and Clothing

Located at the Tropic of Capricorn at an altitude of over 600 meters, Campinas has a pleasant breezy climate where the average temperature is 21°C. There is a cool dry season from June to September and a warm, rainy season from October to March. All types of temperate clothing are needed, including a light topcoat, sweaters and other woollens for chilly winter days.

Brazilian Customs

Visiting professors generally do not encounter difficulties in clearing Brazilian customs when they bring with them such items as typewriters, small tape recorders, cameras, electric irons or hair dryers. However, Brazil has very strict regulations on importation of specialized equipment: video cameras, small personal computers, etc.

In these cases, special measures must be taken to be able to bring such equipment into the country. The Brazilian Ministry of Foreign Affairs has advised that if sufficient advance notice of the arrival of special equipment is given to the Cultural Division of the Ministry, arrangements can be made for the temporary importation of the equipment with a customs waiver.

To facilitate Brazilian government clearance for the importation of specialized equipment, the visiting professor must inform the International Relations Office at UNICAMP at least one month in advance of his/her arrival with the following information:

- 1.- Where appropriate, data on the item: serial number, model, and technical nomenclature.
- 2.- The visitor's passport number, issuance and expiration dates, type of visa, and visa number.
- 3.- The name of the airline he/she will use to enter the country, the flight number and date of arrival.

The items to be imported under this special permission provided by the Brazilian Ministry of Foreign Affairs should be checked by the visitor's accompanied baggage when he/she boards the flight to Brazil. The items imported under this arrangement **MUST ACCOMPANY THE VISITOR AS ACCOMPANIED BAGGAGE WHEN THE VISITING PROFESSOR DEPARTS BRAZIL.** If this is not done, there could be problems posed by Brazilian airport authorities in departing the country. The diplomatic pouch is not to be used for shipment of specialized equipment.

Money and Banking

Considering the great number of difficulties which frequently occur when funds are transferred to Brazil from abroad, it is extremely important that you become familiar with your government regulations and those of our country for exchange of currency.

The official exchange rate is controlled by the Brazilian Federal Government. Purchase/selling operations of foreign currency is regulated by the Central Bank of Brazil. Only visiting professors holding a temporary visa item V can purchase foreign currency when they return to their home country after the expiration of their work contract with UNICAMP.

Since it usually takes as long as two months to begin receiving a monthly salary from UNICAMP, it is advisable that visitors be prepared to bring with them enough money for living expenses during this period.

Please be careful not to carry on your person large sums of money, a security precaution particularly in Rio de Janeiro and São Paulo. Most visitors find it convenient to open a checking account as soon as arriving in Campinas. There is a branch of the Banco do Estado de São Paulo - BANESPA on campus. Local bank checks are readily accepted at supermarkets, stores, restaurants and gas stations.

Most banks require a "CPF" number (The Brazilian Income Tax Identification Number) when opening a new account. Your official visa should exempt you from this requirement but there are times that the bank will not agree to such an exemption. Talking to the bank manager, or perhaps a Brazilian colleague could help in opening an account.

Education in Brazil

Attendance to the first eight years of primary school is compulsory. Students are not required to pay fees at public schools. The number of available openings, however, at both public and private schools, are very limited. One must reserve an opening much in advance for first and second grade students to guarantee a timely enrollment, otherwise, the student may lose an entire school year.

The school year has two terms approximately 16 weeks each.

- First term: February until June, starting the first working day in February.
- Second term: August until November, starting the first working day in August.

Preliminary registration usually takes place in October. Listed below is a list of documents required:

- 1) Birth certificate;
- 2) School records;
- 3) International Vaccination Certificate

Please Note

All foreign documents must be certified by the Brazilian consular authorities in the country where the documents were issued, and then translated into Portuguese in Brazil by a sworn public translator in order to be valid in this country.

COMING TO BRAZIL

Most people coming to Brazil are required to have a passport and an entry visa. Your passport should be valid for the period of your stay in the country.

Entry Visa

A visiting professor may come to Brazil on one of two temporary entry visa categories. The criteria depends upon the nature of the link the professor has with the Brazilian institution. A temporary visa must be obtained at the Brazilian Embassy or at the Brazilian Consulate in your country of origin BEFORE coming to Brazil. It is indispensable to apply for a visa early since obtaining it may require a delay of a few months.

Temporary Visa - Item I

If a professor comes to UNICAMP under a bilateral cooperation agreement or exchange program, or is invited to participate in seminars or profer lectures, etc., without a legal contract with a Brazilian Institution, the Temporary Visa - Item I is in order.

This entry visa is usually valid for up to one year. Successive extensions may be requested at the Federal Police Department located at the Viracopos Airport, 30 days prior to the visa expiration date, by presenting proof of renewal of his/her academic link with UNICAMP.

The International Relations Office (ARI) at UNICAMP will be glad to assist in the process of requesting your Temporary Visa, Item I. An application form (Formulário Professor Visitante Estrangeiro para Concessão de Visto Temporário Item I) must be completed and signed by the person requesting the visa. ARI will then forward the application to the competent federal offices and follow up the request. The visa will be sent to the Brazilian Embassy or Consulate of your choice.

The following documents must be presented to the Brazilian Consulate authorities to request the Temporary Visa Item I:

- Passport;
- International Vaccination Certificate, if required;
- Health Certificate (not required for visitors staying in Brazil for less than 90 days);
- Proof of Means of Support (a letter of invitation, or a cultural or scientific appointment by a public or private institution, or presentation of any document which may justify travel to Brazil, indicating how long he/she will stay. (Should one of these documents not

be received in time for you to obtain a Temporary Visa Item I BEFORE you leave your country of origin, DO NOT enter into Brazilian territory with a tourist visa. A change of visa status after entry to Brazil is difficult to obtain. Contact the International Relations Office who will try to help you solve this problem.)

- Testimonial of good conduct, or equivalent document;

Temporary Visa Item V

If the professor comes to Brazil to develop teaching and/or research activities supported by a legal work contract with UNICAMP, then a Temporary Visa Item V is required.

UNICAMP will request the Immigration Division of the Ministry of Labor to approve such a work contract. Only after it has approved UNICAMP's request will a Temporary Visa Item V be granted. Please be aware that this process usually takes at least six months.

We suggest that you contact the Brazilian Embassy or Consular authorities who will inform you on the documentation required for an Item V visa. It is most likely that the following documents will be requested:

- Passport
- International Vaccination Certificate
- Health Certificate
- Statement of good conduct

A Temporary Visa Item V is valid for a maximum of four years. Visa extensions may be requested at the Federal Police Department at the Viracopos Airport at least 30 days before the visa expiration date by presenting proof that your academic link with UNICAMP has been renewed.

Legalizing your Entry and Stay in Brazil

- The ENTRY/DEPARTURE Card distributed upon entry to Brazil must be completed in clear print upon entry, no corrections or erasures allowed. Demand from the Federal Police Department an official stamp on both your passport and your card. Should this procedure not be followed, your stay in Brazil will be considered illegal. No payment is due for these services.

- Your passport, International Vaccination Certificate, Health Certificate with chest x-ray, and a certified copy of your request for an entry visa should be presented to the Brazilian Customs upon entry.

- Always keep on your person your passport and a copy of the entry/departure card which must be returned to the the Federal Police Department when you leave the country.

Registration at the Federal Police Department

Persons holding a Temporary Visa must register at the Federal Police Department in Campinas within 30 days from the date of arrival on Brazilian territory. After registration, you will receive a temporary foreign identification card (Carteira de Identidade para Estrangeiro).

In order to register you must take with you:

- passport;
- visa application forms;
- 2 (two) 3 x 4 cm, black and white, laboratory-developed photographs;
- receipt of paid registration fee; (the registration fee, approximately US\$20, in cruzados, may be paid at the bank located at the airport. The bank will request that you fill in a payment form called DARF, which must be purchased in advance at the bookstore also located at the airport.)

Address:

Polícia Federal de Viracopos
 Rodovia Santos Dumont km 14
 Phone (192) 47-8447
 Campinas - SP
 Open from Monday until Friday
 10:00 am until 4:00 pm

Every 40 minutes, the bus 'Aeroporto Viracopos' leaves for the Viracopos Airport from the Terminal Central located right below the 'Miguel Vicente Dury' Viaduct in Campinas.

Portuguese Language Courses

The Institute of Language Studies (IEL) offers special language courses to anyone whose native language is not Portuguese. Classes usually meet 4 hours a day, 3 times a week.

Please Remember

Make sure your travel documents are in order. Do not finalize your arrangements to depart until you have your passport and a Temporary Visa - Item I or V. Once in Brazil, register at the Policia Federal as soon as possible. Please observe the visa expiration date.

For further information on immigration matters or UNICAMP after reading this pamphlet, please write to or call:

Assessoria de Relações Internacionais
Universidade Estadual de Campinas
Cidade Universitária "Zeferino Vaz"
Caixa Postal 1170
13081 - Campinas - SP - Brasil
Telephone: area code (0192) 37-3746
(0192) 39-1301, Ext.2160
2346, or 2076
Telex (019) 1150 - UNICAMP

HOPE TO SEE YOU SOON!

6. 第3国との交流実績



UNIVERSIDADE ESTADUAL DE CAMPINAS

ASSESSORIA DE RELAÇÕES INTERNACIONAIS

UNICAMP

A - CONVÊNIOS FIRMADOS

- 1 - Alemanha (RDA) - República Democrática Alemã
 - Convênio de cooperação técnica entre a UNICAMP e a Universidade "Wilhelm Pieck" de Rostock.
Processo 5983/87
Interessado: Instituto de Educação
Objetivo: Convênio Geral
 - Convênio de cooperação técnica entre a UNICAMP com o Governo da República Alemã:
Processo: 2627/77
Interessado: Centro de Tecnologia
Objetivo: Desenvolvimento do projeto "Desenvolvimento de Componentes e Sistemas Mecânicos de Veículos Ferroviários e Vias Permanentes".
Outubro 1980 a Dezembro 1987
- 2 - Alemanha (RFA) - República Federal Alemã
 - Acordo de cooperação científica entre a Technischen Hochschule Darmstadt (THD) e a UNICAMP.
Processo 4364/78
Interessado: Faculdade de Engenharia de Campinas
Objetivo: Convênio com intercâmbio de professores, pesquisadores e funcionários; troca de publicações científicas; organização de projetos de pesquisas comuns.
Existem 3 projetos: Computação Gráfica: HOMUL
Computação Gráfica: Robótica
Engenharia Química: Síntese de Metanol
 - Convênio de cooperação científica entre a UNICAMP e o Centro de Pesquisa do Câncer em Heidelberg.
Processo: 198/85
Objetivo: Projeto de cooperação científica
- 3 - Angola
 - Colaboração de professores para o ensino ao nível de graduação na Universidade de Angola.
Processo: 2643/81

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telefone: FAPX (0192) 39 1301
Telex: (019) 1150



UNICAMP

4 - Argentina

- Convênio de cooperação técnica entre a UNICAMP e a Universidade Del Salvador, Argentina, para adestramento em organização universitária.

Processo: 3626/83

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad Nacional de Rosario, para intercâmbio científico, tecnológico e cultural.

Processo: 3814/83

5 - Bolívia

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad Mayor de San Andres de La Paz, Bolívia, para regular o intercâmbio científico entre ambas as instituições.

Processo: 1099/74

Objetivo: Intercâmbio de pesquisadores professores e técnicos em andamento.

- Convênio de cooperação técnica e científica entre a UNICAMP e a Universidad Gabriel René Moreno de Santa Cruz de La Sierra.

Processo: 1601/76

- Convênio para intercâmbio e cooperação científica entre UNICAMP e a Universidad Boliviana "Tomás Frías".

Processo: 4879/77

- Convênio entre a UNICAMP/CECAM e o Instituto Oncológico Del Oriente Boliviano, que tem por finalidade definir a cooperação científica, operacional e técnica nas áreas de atuação de ambas as instituições.

Processo: 4560/85

Objetivo: Intercâmbio de pesquisadores

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad de Núr, para cooperação científica entre ambas as instituições.

Processo: 5136/85

Objetivo: Convênio geral com intercâmbio de docentes, estudantes e bibliografia.



UNICAMP

6 - Bélgica

- Acordo Cultural, Científico e Didático entre a UNICAMP, Instituto de Artes, Setor de Eletroacústica do Departamento de Música e o Estúdio de Pesquisas e de estruturas Eletrônicas Auditivas de Bruxelas.

Processo: 5797/82

7 - Colômbia

- Convênio de Colaboração Técnica e Científica entre a UNICAMP e a Universidad Nacional da Colômbia.

Processo: 5476/75

Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos

Duração: 10 anos à partir de 1980

Objetivo: Convênio de cooperação técnica e intercâmbio cultural

8 - Chile

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad de Concepcion.

Processo 4094/80

Interessado: Instituto de Química

Objetivo: Desenvolvimento de pesquisas conjuntas nos diversos campos da Química.

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad de Concepcion.

Processo: 3702/81

Interessado: Instituto de Física

Objetivo: Desenvolvimento da docência bem como da pesquisa no campo da Física, a nível de Pós-Graduação.

- Convênio de cooperação entre a UNICAMP e a Universidad de Tarapaca Arica.

Processo: 5711/83

Assinado em 1986, com duração indeterminada.

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad Técnica Frederico Santa Maria.

Processo 7068/83

Interessado: Instituto de Física e Instituto de Química

Objetivo: cooperação em matérias relacionadas com a docência

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telefone: PABX (0192) 39-1301
Telex: (019) 1150



UNICAMP

superior e projetos de investigação.

Processo: 7068/83

9 - Cuba

- Acordo de cooperação entre a UNICAMP e a Universidad de La Habana

Processo: 8100/86

Interessado: UNICAMP

Objetivo: Convênio geral, participação no âmbito de suas atividades científicas e culturais, no estabelecimento de formas de cooperação entre as instituições universitárias do Brasil e de Cuba.

10 - Dinamarca

- Convênio entre a UNICAMP e o Nordisk Teaterlaboratorlum Odin Teatret referente a acordo de cooperação pedagógica e cultural.

Processo 495/85

11 - Estados Unidos da América

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade Estadual de Bowling Green.

Processo: 3517/75

Objetivo: Desenvolvimento das experiências inter-americanas, inter-culturais e inter-universitárias.

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade de Massachusetts.

Processo: 2107/79

Interessado: Instituto de Química

Objetivo: Convênio "guarda-chuva" com intercâmbio de pesquisadores e professores e intercâmbio de Materiais Escritos.

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade Estadual de New York Suny, para intercâmbio acadêmico.

Processo: 6025/82

Interessado: Departamento de Linguística

Objetivo: Intercâmbio de alunos de graduação.



UNICAMP

- Convênio entre a UNICAMP e a Bendel State University.
Processo: 6127/82
Objetivo: Regular Intereâmbio científico entre ambas as Universidades.
 - Protocolo de Intenções entre a UNICAMP e a Universidade de Miami.
Processo: 5602/86
 - Protocolo de cooperação científica e técnica entre a UNICAMP e a Universidade de Flórida.
Processo: 2227/87
Interessado: Instituto de Biologia
Objetivo: Pesquisa e Treinamento em controle biológico e áreas relacionadas.
- 12 - Equador
- Convênio entre a UNICAMP e a Escola de Engenharia Química da Universidade Central do Equador.
Processo: 1755/76
Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos e Faculdade de Engenharia Agrícola.
Duração: cinco anos à partir de 76 com prorrogação automática.
Objetivo: Convênio de cooperação Técnica e Intercâmbio Cultural.
 - Convênio de Cooperação Técnica e Científica entre a UNICAMP e a Universidad de Guayaquil de Ingenieria Quimica do Equador.
Processo: 1626/79
Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
Objetivo: Cooperação Técnica e Científica com cinco anos de duração a partir de 1976 com prorrogação automática.
- 13 - França
- Convênio entre UNICAMP e a Universidade de Paris VII.
Processo: 3094/81.
Interessado: Faculdade de Ciências Médicas
Objetivo: Manutenção e desenvolvimento de cooperação no domínio



UNICAMP

da Psicologia Médica, da Psiquiatria e das Ciências Clínicas Humanas.

- Acordo entre a UNICAMP e a Universidade René Descartes (Paris V) para regulamentar a interação científica entre as duas Universidades.

Processo: 5975/82

- Acordo de cooperação entre UNICAMP e a ENSIA para desenvolvimento de processo econômico na área de tecnologia de processos econômicos na área de tecnologia de Transformação de Medicina.

Processo: 210/83

Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos

- Participação da UNICAMP no Acordo de cooperação entre CNPq e o INSERM (Institut National de Sante et Recherche Medical).

Processo 5422/84

- Convênio entre a UNICAMP e o IRCAM - Institut de Recherche et Coordination Acoustiq et Musical, referente a acordo cultural.

Processo: 497/85

Interessado: Instituto de Artes

- Convênio entre a UNICAMP e o Institut D'Etudes Theatrales da Sorbonne, referente a acordo inter-universitário.

Processo: 497/85

Interessado: Instituto de Artes

- Convênio entre UNICAMP e Escola de Altos Estudos em Ciências Sociais (EHESS)

Processo: 3590/85

Interessado: Instituto de Física

Objetivo: Realização conjunta de pesquisas interdisciplinares sobre o tema "O Homem no Sudeste do Piauí: da Pré-História aos dias atuais. A Interação Homem Meio".

Processo: 3590/85



UNICAMP

14 - Gabão

- Convênio de Cooperação Cultural e Técnica, entre UNICAMP e Universidade de Omar Bonyo.

Processo: 6885/84

Interessado: IEL

15- Honduras

- Acordo de cooperação entre a UNICAMP e a Univesidad Autónoma de Honduras.

Processo: 2032/81

Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
Em andamento.

16- Inglaterra

- Cooperação Técnica entre a UNICAMP/SEPLAN/SUBTIN/UK (Reino Unido) The British Council-Science and Technology

Processo: 3040/85

Objetivo: Unidade de Ciência e Tecnologia Educacional e Desenvolvimento Administrativo.

- Convênio de Cooperação entre a UNICAMP e o Guy 's Hospital.

Processo: 3579/85

Interessado: CECAN - Centro de Controle do Câncer

Objetivo: Intercâmbio de Pesquisadores

Projeto: Implantação de Terapêutica do Câncer de Mama com implante de iridium associado a cirurgia limitada.

17- Iraque

- Convênio de Cooperação Científica e educacional entre a UNICAMP e a University of Salahaddin.

Processo: 2829/82

18- Israel

- Convênio de Cooperação Científica, Cultural e Pedagógica entre a UNICAMP e a Universidade de Tel Aviv.

Processo: 5112/79

Objetivo: Convênio Geral com intercâmbio de pesquisadores, profes-



UNICAMP

sores e alunos; desenvolvimento de programas de pesquisa e ensino conjuntos; e organização de seminários, simpósios, cursos breves e grupos de trabalhos conjuntos.

19 - Itália

- Acordo entre a UNICAMP e o laboratório de Cosmo Geofísica do Conselho Nacional de Pesquisa de Turin, para intercâmbio científico entre ambas as instituições.
Processo: 2388/82
Interessado: Instituto de Física, Departamento de Cronologia, Raios Cósmicos e Altas Energias .
Objetivo: Intercâmbio de Pesquisadores, professores e técnicos.
- Convênio entre a UNICAMP e o Instituto de Geocronologia e Geoquímica Isotópica, de Pisa, do Consiglio Nazionale Delle Ricerche (CNR)
Processo: 1998/83
Interessado: Instituto de Física
Objetivo: Intercâmbio de Pesquisadores, Professores e Técnicos.
Em andamento.
- Acordo de cooperação científica entre a UNICAMP e a Università Degli Studi di Trieste.
Processo: 1605/84
Objetivo: Convênio Geral com projetos na área de Física de Plasmas.
- Convênio entre a UNICAMP e a Casa Di Cura Madre Fortunata Torriolo de Pio Instituto Piccole Suore Della Savia Famiglia.
Processo: 1599/86
Interessado: Centro de Controle do Câncer
Objetivo: Programa de colaboração através de organização mútua de visitas, intercâmbio de informações e trabalhos de pesquisas cooperativas e desenvolvimento de projetos na área de ensino e atualização dentro do seu ambito de ação.
- Convênio entre a UNICAMP e a Università Degli Studi Di Bologna.
Processo: 4412/87



UNICAMP

Objetivo: Cooperação e aprimoramento de atividades de ensino e pesquisa através de intercâmbio de pessoal docente e científico e do apoio a projetos de interesse mútuo.

- Acordo de cooperação cultural e científica entre a UNICAMP e a Università Degli Di Roma/La Sapienza.

Processo: 5232/87

20 - Japão

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade de Tókyo referente a interação científica

Processo: 7018/76

Interessado: Instituto de Física

Objetivo: Intercambio de pesquisadores, professores e técnicos.

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade de Gifu para cooperação científica entre ambas as instituições.

Processo: 3569/82

Executor: Assessoria de Relações Internacionais

Objetivo: Convênio "guarda-chuva" incluindo intercâmbio de alunos de graduação.

- Acordo de Cooperação Internacional entre a UNICAMP e Japan International Cooperation Agency - JICA.

Processo: 6946/84

Interessado: Instituto de Física

- Convênio entre UNICAMP e Ministry of International Trade and Industry (MITI) do Japão referente a cooperação na área de Quartzo da Universidade.

Processo: 10555/86

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade de Waseda, Japão. Intercâmbio de Pesquisadores, Professores e Técnicos.



UNICAMP

21 - México

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade Autônoma de Guadalajara para regulamentar o intercâmbio científico entre ambas as instituições.

Processo: 393/79

- México/Venézuela/Republica Dominicana

Acordo de cooperação acadêmica Técnico-Cultural, entre UNICAMP/ Universidade Federal de Pernambuco/Universidade Autônoma de Santo Domingo (Republica Dominicana) / Universidade Autônoma de Chiapas (México) / Universidade Simon Bolivar (Venezuela).

22 - Moçambique

- Acordo de Intenção entre a UNICAMP e a Universidade Eduardo Mondlane para regular intercâmbio Técnico e Científico entre ambas as Instituições.

Processo: 1427/83

Cinco projetos nas áreas designadas pelo Protocolo foram encaminhadas a Moçambique, pelo Itamaraty:

- Educação de Adultos
- Área de Saúde
- Sistema de Gestão de Pessoal
- Equivalência de Títulos: Mestrado e Doutorado
- Cursos de Formação de Professores da Universidade Eduardo Mondlane.

23 - Paraguay

- Acordo de Cooperação entre a UNICAMP e o Instituto de Ciências Básicas da Universidade Nacional de Assuncion

Processos: 3816/74 e 4651/74

- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade Nacional de Assuncion para cooperação cultural Técnico-Científica.

Processo: 5328/75



UNICAMP

- Convênio de Cooperação técnica entre a UNICAMP e a Universidade Nacional de Assuncion. Convênio Geral.
Processo: 3786/82
- 24 - Peru
 - Convênio de Cooperação entre a UNICAMP e INDRA (Instituto Nacional de Desarrollo Agroindustrial)
Processo: 8380/85
Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
Objetivo: Duração de um ano a partir de 1985 com prorrogação automática.
- 25 - República Dominicana
 - Acordo Básico de Cooperação entre a UNICAMP e a Universidade Autônoma de Santo Domingo
Processo: 3378/84
Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
Convênio Geral com duração indeterminada a partir de 1983.
- 26 - Suécia
 - Convênio entre a UNICAMP e a International Foundation for Science - Suécia, Total Synthesis of Some Insect Pheromones.
Assinado em 1985 com duração de 3 anos.
- 27 - Turquia
 - Convênio entre a UNICAMP e a Universidade de Antioquia, para intercâmbio científico entre ambas as Instituições.
Processo: 3348/80
- 28 - Uruguai
 - Convênio entre a UNICAMP e a Universidade de La Republica do Uruguay para colaboração técnica e científica entre ambas as instituições.
Processo: 3410/78
Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
Duração: Um ano a partir de 1978 com prorrogação automática.



UNICAMP

- 29 - União das Repúblicas Socialistas Soviéticas
- Protocolo de colaboração científica entre a UNICAMP e o Instituto Lebedev da Academia de Ciências da URSS/(FIAN), no período de 1982 a 1987.
- Processo: 4412/82
- Interessado: Instituto de Física
- Projeto em execução no âmbito desse Convênio Geral: "Estudos da Radiação penetrante na Região da Anomalia Magnética do Brasil". (Processo 5041/87)

CONVÊNIOS FIRMADOS COM ORGANISMOS INTERNACIONAIS

- Convênio de Cooperação Técnica entre a UNICAMP e o Programa das Nações Unidas para o desenvolvimento.
- Processo: 2815/85
- Interessado: Instituto de Física - Laboratório de Combustíveis Alternativos.
- Assinado em 1985 com prazo indeterminado.
- Contrato entre a UNICAMP/CEATENGE/UNESCO para apoio à Tecnologia de Ensino de Engenharia.
- Processo: 1017/86 (em andamento)
- Protocolo de intenções entre a UNICAMP e a Organização dos Estados Americanos.
- Processo 5456/87
- Convênio de Cooperação na área de intercâmbio acadêmico e cultural com especial atenção para os setores científicos e educacional.



B - CONVÊNIOS PROPOSTOS

UNICAMP

- 1 - Argentina
 - Convênio de Cooperação entre a UNICAMP e a Universidade Nacional del Centro de La Provincia de Buenos Aires - Argentina
Processo: 6044/87
 - Carta de Intenção entre a UNICAMP e a Universidad Nacional de Entre - Rios, que tem por objetivo o desenvolvimento científico, tecnológico e cultural de ambos os países.
Processo: 8495/87
 - Convênio Geral de cooperação entre a UNICAMP e a Universidade Nacional de La Plata, para desenvolvimento das áreas de pesquisa científica e tecnológica, promoção cultura e aprimoramento do ensino em todos os níveis.
Processo: 8494/87
- 2 - Bélgica
 - Convênio entre a UNICAMP e l'Université Catholique de Louvain, com a finalidade de promover uma cooperação cultural entre ambas as instituições no campo da filosofia.
Processo: 1580/78
Interessados: Instituto de Física , Instituto de Filosofia e Ciências Humanas, Centro de Lógica e Epistemologia.
- 3 - Bolívia
 - Convênio de Cooperação Técnica e Científica entre a UNICAMP e a Universidade Autónoma Gabriel Rene Moreno de Santa Cruz de La Sierra.
Processo: 3561/87
Convênio proposto não assinado pela outra parte.
- 4 - Canadá
 - Convênio de Cooperação entre a UNICAMP e a Universidade de Quebec À Trois - Rivières - Canadá
Processo: 5787/87



UNICAMP

5 - Estados Unidos

- Acordo de Cooperação entre a UNICAMP e a LBJ (Escola de Assuntos Públicos) da Universidade do Texas em Austin, para o desenvolvimento de programas de interesse e benefícios mútuos nas áreas de pesquisa e docência em assuntos públicos e administração.

Processo: 8241/87

- Acordo de intercâmbio cultural e de cooperação entre a UNICAMP e a Universidade de Boston.

Processo: 8316/87

- Convênio entre a UNICAMP e a Colorado School of Mines, em Golden Colorado, referente ao intercâmbio de professores e alunos e quaisquer outros programas que possam ser considerados de Benefícios mútuos.

Processo: 9227/87

- Convênio entre a UNICAMP e a Southeastern Massachusetts University.

6 - França

- Acordo de cooperação entre a UNICAMP e a L'Ecole de Haute Etudes en Sciences Sociales, referente a pesquisas em Antropologia Médica e Estudos Transculturais.

Processo 4428/87

Prof. Mara Cabral - Faculdade de Ciências Médicas, Departamento de Psicologia Médica e Psiquiatria.

- Convênio de intercâmbio de estudantes de graduação entre a UNICAMP e o Instituto Nacional de Ciências Aplicadas de Lyon (INSA), para promover uma cooperação acadêmica e reforçar seus vínculos nas áreas culturais e econômicas.

Processo: 5431/87

Interessado: Faculdade de Engenharia de Campinas, Departamento de Engenharia Mecânica.

Objetivo: Intercâmbio de alunos



UNICAMP

- 15 - Inglaterra
- Convênio de colaboração entre a UNICAMP e a Universidade de Oxford.
 - Processo: 2508/87
- 16 - Peru
- Convênio entre a UNICAMP e a Universidad Mayor de San Marcos referente a cooperação científica em programas de graduação e pós graduação em área de ciência, tecnologia e engenharia de alimentos.
 - Processo: 9616/87
 - Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
 - Convênio entre a UNICAMP e a Universidad de Tingo Maria, referente a cooperação científica em programas de graduação e pós-graduação em áreas de ciência, tecnologia e engenharia de alimentos.
 - Processo: 9617/87
 - Interessado: Faculdade de Engenharia de Alimentos
 - Convênio de cooperação mútua entre a UNICAMP e a Universidad Nacional Agraria de La Molina.
 - Processo: 9618/87
- 17 - Portugal
- Convênio entre a UNICAMP e a Universidade Técnica de Lisboa.
 - Processo 5763/87
 - Objetivo: Cooperação técnica, científica e cultural.
- 18 - México
- Convênio de Cooperação entre a UNICAMP e a Universidade Nacional Autonoma do México - Instituto de Investigações Filosóficas - IIF.
 - Processo: 1176/87
- 19 - União das Repúblicas Socialistas Soviéticas
- Convênio de Cooperação entre a UNICAMP e a Academia de Ciências da República Soviética Socialista da Lituânia.
 - Processo: 7992/87

Universidade Estadual de Campinas
Caixa Postal 1170
13100 Campinas SP Brasil

Telefone: PABX (0192) 39-1301
Telex: (019) 1150

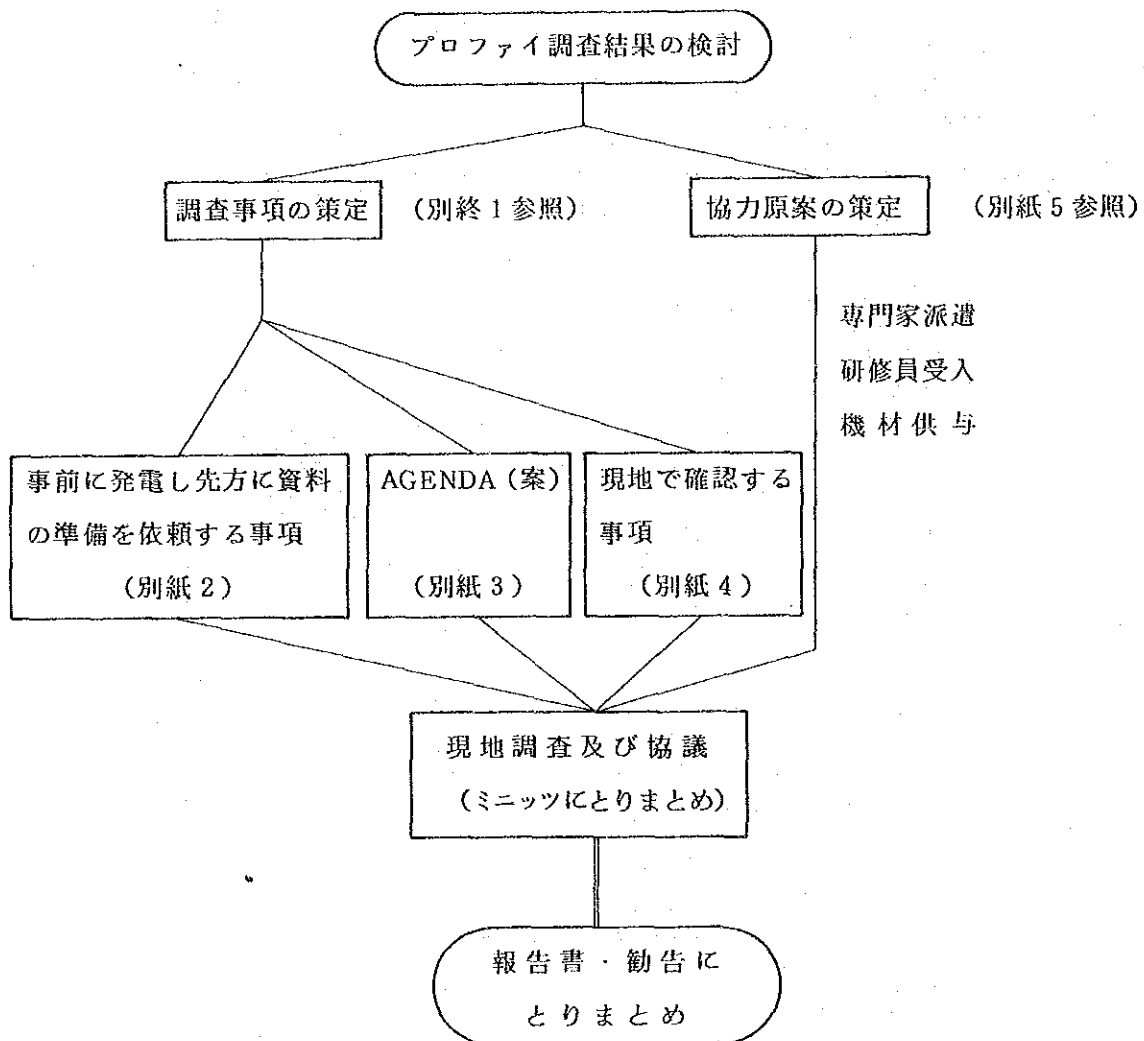
ARI-29.10.87-smm

7. 事前調査団派遣前準備資料

調査の方法

今次調査の流れ図は、下記のとおり。

関係資料を別添する。



調 査 事 項

(案)

1. 先方より要請内容の聴取・確認を通じ、
 - (1) プロジェクトの目的
 - (2) 技術協力の到達目標
 - (3) 活動計画概要
 - 教育の方法
 - 養成計画（必要数・目標小数・職種別）
 - 研究のテーマ・入員を策定する。
2. 協力分野の現状と問題点を視察およびインタビューを通じ、明らかにする。
特に、
 - (1) 臨床及び研究内容の実状（疾患別死因統計等、外来・入院疾患別統計）
 - (2) 研究成果
 - (3) 能力レベル
 - (4) 施設建設計画（供与機材の計画を含む）
 - 電気：
 - 水：
 - ガス：を調査し、必要かつ妥当な協力内容を明確にする。
3. 質問状により、
 - (1) カンピーナ大学概要・医療サービスの現況（国立病院・保険病院・私立病院の現況）・
研究所の実状・医学教育と専門医までのステップ（制度）・医師会の実状・日本人専門家の医療行為・第三国との協力実績
 - (2) 組織・予算・c/p（スタッフ）リスト・勤務時間・施設の実状
 ↓ ↓
 (入手済) (一部入手済)
 - (3) R/D署名者・プロジェクトの責任者・Coordinating Committeeの構成を明らかにする。
4. 両者の負担事項を確認する。（R/Dをベースに）
特に運営費、消耗品調達、研究費、機材等ランニングコスト、機材国内輸送費
5. 上記を統合し、協力計画（案）を策定する。
 - (1) 専門家派遣
 - (2) 研修員受入（研修員候補者調査→研修計画）
 - (3) 機材供与（リスト作成）

6. 以上をとりまとめミニッツを作成し、署名する。

(注) (1) 出発までに関連資料を基に協力案を作成しておきたい。

(2) 以上の項目を以下の3種に分け進めることとする。

- ① 事前に電報を打ち、先方に資料を用意しておく事項
- ② 現地で確認する項目
- ③ AGENDA案

電 信 発 信

種 類	普通・至急・秘
宛 先	1. JICA BRAZIU (本電) 2. JICA SAO PAULO (転電)
件 名	カンピーナス大学消化器病診断センター (事前調査)

往電MCFAX273号に関し

本調査団の円滑な業務実施のため、下記事項につきあらかじめ先方に説明おきありたく併せ資料の準備方依頼ありたい。

1. 冒頭往電別紙1中下記団員は次のとおり目的を有して調査活動を行うところ、先方に右説明の上適当なカウンターパートの準備方依頼ありたい。
 - (4) 佐藤琉球大学教授は、本センターに病理学的・血清学的診断技術及び疫学的研究を設けることの必要性と可能性を調査する。
 - (6) 堀尾島津製作所課長は、本センターに供与を予定している機材の資料を持参し、先方の施設建設相当者等との間で建物内の右機器のレイアウト必要設備等につき協議する。
2. 冒頭電別紙3.調査事項中、下記事項につき、本調査団が貴地到着迄に資料の準備方、先方に依頼ありたい。
 - (1) 疾患別死因統計・外来入院患者別疾患別統計
(カンピーナス大学付属病院及びサンパウロ州の統計)
 - (2) 現在の施設(200m²7室及び手術室)の平面図と機材ソフト(スペックも含む)
 - (3) 建設予定の1200m²建物の平面図
 - (4) 本センターの組織図(案)と配置予定主要スタッフの勤務時間と給料
 - (5) 本センターのカンピーナス大学組織図上の位置付けと予算(案)
 - (6) カンピーナス大学の概要を記したカタログ(特に医学部・生物科学部のドクターコースの概要)
 - (7) 医療サービス概況(国立病院・保険病院・私立病院の医療サービス分担・役割)
 - (8) 基礎医学研究所があればその概況(活動内容・スタッフ数)
 - (9) カンピーナス大学医学部教授に成る迄で標準必要年数と経歴
 - (10) カンピーナス大学医学部の第3国との協力実績と現況
 - (11) カンピーナス市医師会概況
 - (12) 日本人専門家(医師)の本センター内の医療行為について(TEMPORARY LICENSEの発行がある場合、その手続)

3. なお、カンピーナス市における調査活動期間中においては、通訳2名を手配願いたい。

SAO. PAULOへ転電した。

JICAHCQ.

AGENDA

1. OUTLINE OF THE PROJECT

PURPOSE

OBJECTIVES

ACTIVITIES

2. PROVISION BY JAPANESE SIDE

3. PROVISION BY UNICAMP AND BRAZILIAN SIDE

BUDGET

COUNTERPART

BUILDING AND FACILITIES

4. ORGANIZATION OF THE PROJECT

5. NAME OF THE PROJECT

QUESTIONS AND CONFIRMATION

1. IMPLEMENTATION AGENCY UNICAMP

CONSIGNEE "

2. OVERALL RESPONSIBILITY MINISTER FOR EDUCATION AND CULTURE

3. ADMINISTRATIVE AND MANAGERIAL RESPONSIBILITY

PRESIDENT OF UNICAMP

4. THE PERSON WHO SIGN THE R/D

"

5. EXCHANGE OF NOTE (E/N)

MINISTER

6. MEMBER OF COORDINATING COMMITTEE

7. SOURCE OF BUDGET

8. STUDY TOUR IN JAPAN FOR 1988

9. EXPERT TEAM FOR PLANNING IN APRIL, 1988

JICA